経済学研究科
シ ラ バ ス

令和３（2021）年度版

大 阪 市 立 大 学 大 学 院
経　済　学　研　究　科

『シラバス』の利用にあたって

令和３（2021）年度

大阪市立大学大学院
経済学研究科 現代経済専攻

この冊子は、講義の内容やテキストなどを紹介しています。履修科目の決定や日頃の勉学に役立ててください。

1. 修了のための履修要件等は『経済学研究科要覧』を参照してください。
2. 講義、演習の配当年、セメスター等は、時間割で確認してください。

目　　次

『シラバス』の利用にあたって…… 1
学年暦・カレンダー…… 2
経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて…… 4
大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表
　基礎科目…… 5
　分野科目…… 6
大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表
　分野科目…… 7
前期博士課程シラバス…… 8
　基礎科目　　前期開講…… 8
　　後期開講…… 15
　分野科目　　前期開講…… 22
　　後期開講…… 48
　研究指導…… 76
前期研究指導１・２及び修了論文指導担当教員一覧…… 80
後期博士課程シラバス…… 81
　分野科目　　前期開講…… 81
　　後期開講…… 107
　研究指導…… 135
後期研究指導１・２・３担当教員一覧…… 138
注意事項…… 139
杉本キャンパスマップ…… 141
教員名簿…… 143

2021年度　学年暦

学年開始	4月 1日（木）
新入生ガイダンス	4月 1日（木）
入学式	4月 6日（火）（予定）
新入生健康診断	4月 7日（水）
前期授業開始日	4月 8日（木）
創立記念日	6月 1日（火）（通常通り授業実施）
授業・試験期間	7月26日（月）～8月6日（金）
夏季休業	8月 7日（土）～9月15日（水）
研修期間	9月16日（木）～9月30日（木）
後期授業開始日	10月 1日（金）
振替授業日	11月 4日（木）月曜日の授業を実施
冬季休業	12月24日（金）～1月 6日（木）
授業・試験期間	1月28日（金）～2月10日（木）
研修期間	2月14日（月）～3月18日（金）
春季休業	3月19日（土）～
卒業式	3月24日（木）（予定）

※ 振替授業日	―	各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
※ 研修期間	―	集中講義や補講などが行われることがある。
※ 授業・試験期間	―	定期試験や授業を行う。
※ 入学式・卒業式	―	日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替授業日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月16日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月16日（金）午後～、17日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

11月1日（月）全時限

［大学祭開催日程：10月30日（土）～11月1日（月）］

・大学入学共通テスト準備に伴う休講

2022年1月14日（金）全時限

［大学入学共通テスト：1月15日（土）・16日（日）］

2021年度カレンダー

4月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

1日（木）新入生ガイダンス
6日（火）入学式（予定）
8日（木）前期授業開始

16日(金)新歓祭午後休講

5月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

6月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

7月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

26日（月）～8月6日（金）
授業・試験期間

8月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

7日（土）～9月15日（水）
夏季休業期間

9月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

16日（木）～30日（木）
研修期間

10月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

1日（金）後期授業開始

11月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

1日（月）銀杏祭休講

4日（木）振替授業日
（月曜の授業を実施）

12月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

24日（金）～1月6日（木）
冬季休業期間

1月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

14日（金）大学入学共通テスト
に伴う休講措置

28日（金）～2月10日（木）
授業・試験期間

2月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28					

14日(月)～3月18日（金）
研修期間

3月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

19日（土）～春季休業期間

24日（木）卒業式（予定）

振替授業日　授業開始日　休業期間　休業日　授業・試験期間

経済学研究科専門科目　科目ナンバーについて

経済学研究科専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバーは以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	対象課程	EM　：前期博士課程 ED　：後期博士課程
上３、４桁	科目の分野	BA　：基礎科目群 TH　：分野別科目群(理論経済分野) HI　：分野別科目群(経済史・経済思想分野) AP　：分野別科目群(応用経済分野) GR　：分野別科目群(グローバル経済分野) RG　：研究指導
上５桁	講義で使用される主要な言語	J　：日本語 E　：英語
上６桁	推奨される履修開始の セメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	5＝前期博士課程１年レベル 6＝前期博士課程２年レベル 7＝後期博士課程１年レベル 8＝後期博士課程２年レベル 9＝後期博士課程３年レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	1	2	3	4	5	6

令和3（2021）年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）

基礎科目（現代経済基礎研究）Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(1):Issues in Economics A	中村（英）他	8
現代経済基礎研究Ⅰ-(3):Global Economy	アウケマ	9
現代経済基礎研究Ⅲ:応用経済分析	岡澤	10
現代経済基礎研究Ⅵ-（1）:マクロ経済分析1 ＜マクロ分析1＞	中村（英）	11
現代経済基礎研究Ⅶ-（1）:ミクロ経済分析1 ＜ミクロ分析1＞	内藤	12
現代経済基礎研究Ⅷ-（1）:政治経済分析1 ＜マルクス経済学1＞	齋藤	13
現代経済基礎研究Ⅸ-（1）:計量分析1	（鹿野）	14

後期（10月1日～3月31日）

基礎科目（現代経済基礎研究）Ⅰ～Ⅸ

科　目　名	担　当	ページ
現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics B	（阪原）	15
現代経済基礎研究Ⅱ:経済史・経済思想分析 ＜歴史分析＞	彭	16
現代経済基礎研究Ⅴ:国際分析	森脇	17
現代経済基礎研究Ⅵ-（2）:マクロ経済分析2 ＜マクロ分析2＞	中村（英）	18
現代経済基礎研究Ⅶ-（2）:ミクロ経済分析2 ＜ミクロ分析2＞	北原	19
現代経済基礎研究Ⅷ-（2）:政治経済分析2 ＜マルクス経済学2＞	中村(健)	20
現代経済基礎研究Ⅸ-（2）:計量分析2	（鹿野）	21

＜　＞内の科目名は2019年度以前入学生用

令和3（2021）年度　大学院経済学研究科前期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）
分野科目　（前期開講）

理論経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
マクロ経済動学研究・同演習	内　藤	22・23
ミクロ経済学研究・同演習	北　原	24・25
複雑系経済学研究・同演習	中　島	26・27
経済史・経済思想分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
社会思想史研究・同演習	中村（健）	28・29
経済学説史研究・同演習	若　森	30・31
日本経済史研究・同演習	彭	32・33
応用経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
日本経済論研究・同演習	滋　野	34・35
金融経済論研究・同演習	辻	36・37
地方財政論研究・同演習	小　川	38・39
流通経済論研究・同演習	柴　田	40・41
福祉経済論研究・同演習	黒　田	42・43
産業政策論研究・同演習	五十川	44・45
グローバル経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
東南アジア経済論研究・同演習	金　子	46・47

後期（10月1日～3月31日）
分野科目　（後期開講）

理論経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
近代経済理論研究・同演習	中　嶋	48・49
数量経済分析論研究・同演習	中村（英）	50・51
マクロ経済学研究・同演習	岡　澤	52・53
現代資本主義論研究・同演習	齋　藤	54・55
統計理論研究・同演習	中　川	56・57
経済史・経済思想分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
西洋経済史研究・同演習	塩　谷	58・59
社会政策論研究・同演習	杉　田	60・61
応用経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
産業経済論研究・同演習	浦　西	62・63
空間経済学研究・同演習	髙　塚	64・65
グローバル経済分野		
科　　目　　名	担　当	ページ
東アジア経済論研究・同演習	朴	66・67
世界経済論研究・同演習	有　賀	68・69
国際経済論研究・同演習	久　保	70・71
中国経済学研究・同演習	森　脇	72・73
近代日本社会史研究・同演習	アウケマ	74・75

令和3（2021）年度　大学院経済学研究科後期博士課程開講予定表

前期（4月1日～9月30日）

分野科目　（前期開講）

理論経済分野

科　目　名	担　当	ページ
マクロ経済動学研究特論・同演習	内　藤	81・82
ミクロ経済学研究特論・同演習	北　原	83・84
複雑系経済学研究特論・同演習	中　島	85・86

経済史・経済思想分野

科　目　名	担　当	ページ
社会思想史研究特論・同演習	中村（健）	87・88
経済学説史研究特論・同演習	若　森	89・90
日本経済史研究特論・同演習	彭	91・92

応用経済分野

科　目　名	担　当	ページ
日本経済論研究特論・同演習	滋　野	93・94
金融経済論研究特論・同演習	辻	95・96
地方財政論研究特論・同演習	小　川	97・98
流通経済論研究特論・同演習	柴　田	99・100
福祉経済論研究特論・同演習	黒　田	101・102
産業政策論研究特論・同演習	五十川	103・104

グローバル経済分野

科　目　名	担　当	ページ
東南アジア経済論研究特論・同演習	金　子	105・106

後期（10月1日～3月31日）

分野科目　（後期開講）

理論経済分野

科　目　名	担　当	ページ
近代経済理論研究特論・同演習	中　嶋	107・108
数量経済分析論研究特論・同演習	中村（英）	109・110
マクロ経済学研究特論・同演習	岡　澤	111・112
現代資本主義論研究特論・同演習	齋　藤	113・114
統計理論研究特論・同演習	中　川	115・116

経済史・経済思想分野

科　目　名	担　当	ページ
西洋経済史研究特論・同演習	塩　谷	117・118
社会政策論研究特論・同演習	杉　田	119・120

応用経済分野

科　目　名	担　当	ページ
産業経済論研究特論・同演習	浦　西	121・122
空間経済学研究特論・同演習	髙　塚	123・124

グローバル経済分野

科　目　名	担　当	ページ
東アジア経済論研究特論・同演習	朴	125・126
世界経済論研究特論・同演習	有　賀	127・128
国際経済論研究特論・同演習	久　保	129・130
中国経済学研究特論・同演習	森　脇	131・132
近代日本社会史研究特論・同演習	アウケマ	133・134

前期博士課程

基礎科目

分野科目

研究指導

授業コード	EM30140010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(1):Issues in Economics A		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅠ-(1):Issues in Economics A		
科目ナンバー	EMBAE1502		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹、中村　健吾、彭　浩		
科目の主題	In this course, three lecturers will each give lectures on different aspects of economy under the influences of mechanization, internationalization and globalization.		
授業の到達目標	All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.		
授業内容・授業計画	If the number of participants is large, this class will be provided by using Web tools. Lecture materials will be uploaded to the Web by the day of a class. Hence, participants should study those and prepare for the class. If you participate this class, you should check 'How to attend' of 'Introduction of remote lecture for students'. After checking the number of participants, lecturers will determine whether this class will use Web meeting tools or not. Three lecturers will each give lectures on the following topics. Theme 1) What Does Mechanization Give Us? (by Professor Hideki Nakamura：中村英樹) Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization (by Professor Kengo Nakamura：中村健吾) Theme 3) The History of Intra-Asian Trade (by Professor Hao Peng：彭浩)		
事前・事後学習の内容	The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.		
評価方法	The course grade will be evaluated by the research paper. If this class is provided by se of Web tools, those papers will be collected by Webclass.Three lecturers will each ask students to write a research paper in English about a subject that students select from a list of approved topics. Students are requested to submit the reserch paper by the deadline indicated by each lecturer. The course grade will be evaluated by the research paper.		
受講生へのコメント	The lecturers will ask students to think carefully about the transformation of economy and encourage them to find a way to adjust themseves to a changing world. If this class uses Web tools, participants can ask questions by using 'Questions and Answers' of a list of class materials. The way of its use is explained in 'About questions and answers' of 'Introduction of remote lecture for students'.		
教材	There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.		

授業コード	EM30150010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(3)：Global Economy		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅠ-(3):Global Economy		
科目ナンバー	EMBAE1503		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	Justin Aukema		
科目の主題	本授業では、グローバル経済の基礎及び歴史的起源について紹介する。特に、現在の経済制度である資本主義の構築や歴史的推移に焦点を当てる。「資本主義はどこから由来し、どのように発展してきたか」という問いを中心に、負債や私有財産、労働階級などといった資本主義の中における根本的な概念について探究していく。		
授業の到達目標	グローバル経済の基礎及び歴史的起源について理解し、それらのことについて英語でコミュニケーションを取れる能力を身につけること。		
授業内容・授業計画	授業は全て英語で行われる。毎週課題として授業テーマに関連するテキストからの一部を読み、授業内で教員が示す質問に回答する。授業の前半では、講義を聞き、英語の聞き取り能力の向上に努める。後半では、学生主体のディスカッションを行う。中間テストの他、「グローバル経済」に関連する各々選んだテーマについて研究し、学期末に発表をする。なお、本授業は学部との合同科目である。そのため、院生が自主的に課題テキスト解説を行い、ディスカッションを担当することがある。 第１回_ 授業紹介：資本主義って何？ 第２回_ 歴史的資本主義 第３回_ 負債の由来 第４回_ 私有財産にまつわる概念 第５回_ 労働者階級の形成 第６回_ 帝国主義や奴隷制 第７回_ 中間テスト 第８回_ 経済と性別役割分業 第９回_ エネルギーと経済 第10回_ 経済危機はなぜ起こるの？ 第11回_ 資本主義・グローバル経済の今後 第12回_ 学生発表（I） 第13回_ 学生発表（II） 第14回_ フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、予め次回の講義テーマに関連するテキスト（学術書の抜粋など）を読むこと。講義内容の理解のために必要であることに加え、テキストを踏まえ学生ディスカッションを行う。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 課題（テキスト解読と課題質問）：50% 学生発表（学期末）：25% 中間テスト：15% 授業内ディスカッション：10%		
受講生へのコメント	本授業は、全て英語で行われるため、学生は積極的に英語テキストの読書・解読や講義の聞き取りなどに強い意志があることが条件。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	EM30030010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅲ：応用経済分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅢ:Applied Economics		
科目ナンバー	EMBAJ1505		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	データ分析・計量経済学の基本的な考え方について、初学者に向けて講義します。		
授業の到達目標	データを正しく読み解くために重要な考え方や技術を理解する。		
授業内容・授業計画	以下の講義計画は状況を見て変更する可能性があります。 第１回 ガイダンス・因果効果とは何か? 第２回 ランダム化対照実験 第３回 実験・自然実験の例 第４回 回帰分析① 第５回 回帰分析の例 第６回 回帰分析② 第７回 回帰分析③ 第８回 回帰分析④ 第９回 差分の差分法 第10回 パネルデータ分析 第11回 回帰不連続デザイン 第12回 操作変数法 第13回 イベント分析 第14回 二段階最小二乗法		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を数回出題する予定です。		
評価方法	中間レポートと期末試験の成績に基づいて評価する予定です。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項を担当教員のHP（https://sites.google.com/site/ryosukeokazawa/lecture）にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	教科書 Joshua D. Angrist and Jorn-steffen Pischke (2014) Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press. 参考文献 1. 中室牧子・津川友介（2017）『原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 』ダイヤモンド社 2. 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法（光文社新書)』光文社 3. 山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社		

授業コード	EM30060010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅵ-(1)：マクロ経済分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅥ-(1):Macroeconomics1		
科目ナンバー	EMBAJ1508		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	マクロ経済分析の基礎を学び習得する。		
授業の到達目標	マクロ経済に関する理論分析を学び、それに用いられる手法を理解する。		
授業内容・授業計画	この講義は対面で行う。 パワーポイントを用いながら講義を行う。理論モデルの説明を主とし、補足的に使われる数学の説明を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_ソロー成長モデル（１） 第３回_ソロー成長モデル（２） 第４回_ソロー成長モデル（３） 第５回_動学分析の基礎 第６回_世代重複モデルによる途上国分析 第７回_貧困の罠（投資） 第８回_貧困の罠（教育投資） 第９回_貧困の罠（出生） 第１０回_経済発展（１） 第１１回_経済発展（２） 第１２回_世代重複モデルによる先進国分析 第１３回_経済成長 第１４回_年金制度		
事前・事後学習の内容	この講義でメインに使う講義資料は最初の講義のときに配布します。よって、各講義において、事前に内容を確認し、講義に受けてください。そして、授業のあと、復習してください。時々、講義中に練習問題を出します。		
評価方法	講義の出席（1/3）とレポート（2/3)により評価する。レポートの内容は、講義内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	講義で配るレジメがテキストです。さらなる参考文献は、講義中に紹介します。		

授業コード	EM30080010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅶ-(1)：ミクロ経済分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅦ-(1):Microeconomic Theory1		
科目ナンバー	EMBAJ1510		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	大学院入門レベルのミクロ経済学を解説する。 本講義では特に標準的な価格理論（消費者理論、生産者理論、一般均衡理論等）を取り上げる。		
授業の到達目標	大学院入門レベルのミクロ経済学の基礎を習得し、数理的な経済モデルを構築する能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義は対面により実施する。 第１回_数学準備1：基礎概念 第２回_数学準備2：微分 第３回_数学準備3：最適化問題 第４回_消費者理論1：選好と効用 第５回_消費者理論2：効用最大化問題 第６回_消費者理論3：支出最小化問題 第７回_消費者理論4：双対性 第８回_生産者理論1：生産技術 第９回_生産者理論2：利潤最大化問題 第10回_生産者理論3：費用最小化問題 第11回_一般均衡理論1：基礎概念 第12回_一般均衡理論2：純粋交換経済 第13回_一般均衡理論3：生産経済 第14回_発展的課題 定期試験		
事前・事後学習の内容	積み上げ式の講義であるため、講義内容をしっかりと復習する必要がある。		
評価方法	期末試験80%、課題提出20%		
受講生へのコメント	講義資料等をWebClassに掲載する。		
教材	テキスト：神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年（購入不要） 参考書：授業中に適宜指示する。		

授業コード	EM30100010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅷ-(1)：政治経済分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅧ-(1):Political Economy1		
科目ナンバー	EMBAJ1512		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	本講義では、マルクスの経済学批判についての正確な基本知識を、テクストの輪読を通じて獲得することを目標とする。その上で、マルクスの経済学批判の今日的な意義について、関連文献の解説やディスカッションを手掛かりに一緒に考えてみたい。		
授業の到達目標	マルクス（主義）の著作を講読し、テクストの解説ならび議論によって、その理論的な核心部分を正確に理解できるようになることを目標とする。受講生による毎回の予習とその予習範囲の報告（レジュメの作成）をもとにしたディスカッションを通じて、自分の言葉でマルクス経済学の基本概念をしっかりと説明できるようになることを目指す。		
授業内容・授業計画	授業では各回ごとに担当を決め、担当者は該当部分のまとめを作成し、最初に発表することで議論の土台を準備する。こちらで若干の補足や解説を行った後に、全体での議論を通じて、テクストを様々な角度から批判的に吟味していく。 第１回_イントロダクション 第２回_マルクスの経済学批判とは？ 第３回_商品・貨幣① 第４回_資本② 第５回_絶対的剰余価値の生産 第６回_相対的剰余価値の生産 第７回_物質代謝の亀裂 第８回_蓄積論① 第９回_蓄積論② 第10回_資本の再生産 第11回_利潤率の傾向的低下① 第12回_利潤率の傾向的低下② 第13回_恐慌論 第14回_転形問題		
事前・事後学習の内容	授業前に、指定された部分を通読し、重要な点、わからない点、批判すべき点などについて簡単なメモを作成し、授業でのディスカッションに向けた準備をしておくこと。 授業後に再読し、理解が深まったことを確認できれば望ましい。またテーマに関連する二次文献なども積極的に読み、研究を深めてほしい。		
評価方法	「まとめ」の発表を４０％、ディスカッションへの参加を４０％、学期末のレポートを２０％で評価する。		
受講生へのコメント	マルクスの思想は難解である。また時代遅れとされることもある。それでも今日まで長年にわたって多くの人々に読み継がれてきた古典の偉大さを体感しながら、資本主義社会についての理解を共に深めていけることを願っている。		
教材	参考書としては、佐々木隆治『カール・マルクス』（ちくま新書）やミヒャエル・ハインリッヒ『新しい資本論の読み方』（堀之内出版）を薦める。		

授業コード	EM30120010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅸ-(1)：計量分析1		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅨ-(1):Econometrics1		
科目ナンバー	EMBAJ1514		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。		
授業内容・授業計画	まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。 次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。 最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。 第１回_イントロダクション 第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布 第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布 第４回_統計的推測（1）：基礎編 第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手 第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS） 第７回_決定係数 第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定 第９回_回帰係数の仮説検定 第10回_統計ソフトgretl による回帰分析 第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS 第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数 第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型 第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量分析２とセットの科目です。引き続き後期に計量分析２を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	EM30160010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅰ-(2):Issues in Economics B		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅠ-(2):Issues in Economics B		
科目ナンバー	EMBAE1516		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	阪原 淳		
科目の主題	I would like to explore the question: “What is society?” through lectures, discussions and some field works. Students are expected to conduct an interview with a person off campus and write a report as a final exam. ＊This class is held entirely in English except off campus field work.		
授業の到達目標	Econmics is a quite creative academic field and students in this class are expected to learn skills to think cretively and undestand society with economics point of view.		
授業内容・授業計画	Syllabus could be changed/adjusted especially depending on the number of students and future career goals of students. 第１回_Introduction. What is the society? 第２回_How does it develop? What is the economy? 第３回_An introduction to four layers. A story of a tiger. 第４回_What is value system? What is politics? 第５回_Who creates social value system? 第６回_Who is innovator? What is job? 第７回_Being an entrepreneur. Being a scientist/engineer. 第８回_Being a worker for a large corporation. Being a worker for media and religions. 第９回_Being a politician. World’s best tomato. 第10回_How engineering is born and penetrates into society. 第11回_Speed of the change of the four layers. What is corporation? 第12回_Temp work and gig work. Perfect information world. 第13回_Dialectic, story, and innovation. Presentation 第14回_Presentation. 定期試験		
事前・事後学習の内容	Class Participation is a key part of this class. Students are expected to conduct a field work. The output of individual field work is a sound file of an hour interview and a report based on it.		
評価方法	Class participation is 60% and final output of field work is 40%.		
受講生へのコメント	I have a quite unorthodox backgrounds as a lecturer.I will approach this class probably quite differently. Please look up my background on the web.		
教材	テキスト：「増補 社会原理序説」(dZERO)		

授業コード	EM30020010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅱ：経済史・経済思想分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅡ:Historical Analysis		
科目ナンバー	EMBAJ1504		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを参加者に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。		
授業の到達目標	経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔により実施する。 主に4つのテーマについて講義を進めていく。①近代経済のダイナミズム、②通商制度の発展、③貿易都市の運営、④商人組織。具体的な課題については、次の授業計画を参照。 第1回　イントロダクション 第2回　港湾都市長崎の形成 第3回　長崎貿易の構造 第4回　長崎貿易と大坂 第5回　唐船貿易に関わる「売込人」 第6回　長崎の荷役「日雇」と「荷漕船」 第7回　信牌システム（上） 第8回　信牌システム（下） 第9回　唐船商人の組織化（上） 第10回　唐船商人の組織化（下） 第11回　オランダ東インド会社（VOC）のアジア貿易 第12回　VOCのバタヴィア経営 第13回　東アジア海域のトレーディング・パス（上） 第14回　東アジア海域のトレーディング・パス（下） ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	授業前、次回講義のテーマに関わる基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。		
評価方法	授業中の取り組み（練習問題の回答と授業の参加度）（50%）と小レポート（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。 各回の授業内容は、授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
教材	教科書は用いない。参考資料をWebClassにアップロードする形で配布。		

授業コード	EM30050010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅴ：国際分析		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅤ:International Economy		
科目ナンバー	EMBAJ1507		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	世界各国に広く存在する発展途上国の経済発展を実現し、貧困状態にある多くの人々の暮らしを豊かにするための方法について考察します。		
授業の到達目標	開発経済学の諸問題をミクロ・マクロ経済学及び計量経済学のフレーム・ワークを使用して理解することが出来るようになること。		
授業内容・授業計画	第1回 経済発展の国際比較① 第2回 経済発展の国際比較② 第3回 経済発展の国際比較③ 第4回 近代経済成長と人口構造① 第5回 近代経済成長と人口構造② 第6回 近代経済成長と人口構造③ 第7回 人口理論と実質賃金の推移① 第8回 人口理論と実質賃金の推移② 第9回 人口理論と実質賃金の推移③ 第10回 農業発展① 第11回 農業発展② 第12回 農業発展③ 第13回 工業化① 第14回 工業化② 定期試験		
事前・事後学習の内容	提示された参考書及び文献によって、 予習復習を行うのが望ましい。		
評価方法	定期試験		
受講生へのコメント	私語は厳に慎むこと		
教材	参考書及び参考論文は授業中に提示します。		

授業コード	EM30070010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅵ-(2)：マクロ経済分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅥ-(2):Macroeconomics2		
科目ナンバー	EMBAJ1509		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	家計、企業、政府の相互依存をもとに、マクロ経済を見ていく。その中で、経済成長論やマクロ諸問題に取り組む。		
授業の到達目標	マクロ経済における理論・統計分析が理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	この講義は、対面で行います。 第１回_マクロ経済学：ガイダンス 第２回_マクロ経済学の基礎：家計・企業・政府の相互依存 第３回_マクロ経済学の基礎：財市場、資本市場、労働市場とそれらの均衡 第４回_マクロ経済学の基礎：家計の効用最大化、企業の利潤最大化、政府の役割 第５回_経済理論で用いる数学の復習 第６回_経済成長論：ソローモデル 第７回_経済成長論：内生成長モデルの説明 第８回_経済成長論：代表的な内生成長モデル（Romerモデル） 第９回_経済成長論：代表的な内生成長モデル（その他） 第１０回_経済成長論：機械化の役割 第１１回_所得不平等の拡大：説明 第１２回_所得不平等の拡大：教育 第１３回_所得不平等の拡大：労働 第１４回_少子高齢化		
事前・事後学習の内容	この講義でメインで使う講義資料は最初の講義のときに配布します。よって、各講義において、事前に内容を確認し、講義に受けてください。そして、授業のあと、復習してください。		
評価方法	講義の出席（1/3）とレポート（2/3)により評価する。レポートの内容は、講義内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストはなし。参考書は適宜紹介する。		

授業コード	EM30090010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅶ-(2)：ミクロ経済分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅦ-(2):Microeconomic Theory2		
科目ナンバー	EMBAJ1511		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ゲーム理論と情報の経済学について、大学院レベルの内容を学ぶ。		
授業の到達目標	教科書の内容を、いくつか追加するものも含めて、理解する。		
授業内容・授業計画	講義形式で行う。基本的にはテキストに沿い、いくつか基礎的な内容の追加も行う。 第１回 ガイダンス 第２回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：ナッシュ均衡 第３回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：混合戦略均衡 第４回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：補論 第５回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：部分ゲーム完全均衡 第６回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：交渉 第７回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：長期的関係と協調 第８回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：補論 第９回 情報の経済学：ベイジアン・ナッシュ均衡 第10回 情報の経済学：完全ベイジアン均衡 第11回 情報の経済学：シグナリング 第12回 情報の経済学：モラル・ハザード 第13回 情報の経済学：逆淘汰 第14回 情報の経済学：補論 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前には、テキストの該当箇所を読んでおく。事後には、練習問題を解く。		
評価方法	期末試験によって評価する。		
受講生へのコメント	講義HP（10月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2021micro.htm		
教材	テキスト：神取道弘『ミクロ経済学の力』日本評論社 参考書：Mas-Colell, A., Whinston, M.D. and Green, J.R.『Microeconomic Theory』Oxford University Press		

授業コード	EM30110010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅷ-(2)：政治経済分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅧ-(2):Political Economy2		
科目ナンバー	EMBAJ1513		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	この授業では、政治経済学の応用の一環として、第２次世界大戦後の欧州統合の過程を分析する。授業は、講義と演習とを混合させる仕方で行なわれる。 　EUでは、1999年におけるアムステルダム条約の発効をきっかけにして、加盟国政府による社会政策を欧州レ ベルで調整しようとする試みが活発になった。そうした政策調整は、雇用政策を皮切りにして、貧困対策、年金制度、移民統合政策にまで及んでいる。そのもとで、EU加盟国においては、「社会的排除 - 包摂」、「アクティベーション」、「フレキシキュリティ」、「市民統合」といった政策用語が欧州全体で用いられ るようになり、それらの一部は日本でも使用されている。 この授業では、EUにおける各種政策の調整とガバナンスの仕組み、各種の政策用語と概念の含意および背景を学んだうえで、「経済・通貨同盟」と並び立ちうるような「社会同盟」がEUにおいて形成されうるのかどうかを検討する。		
授業の到達目標	受講生には、国際比較の観点と、政策評価における批判的なまなざしを養ってもらうことを目標に据える。		
授業内容・授業計画	【授業内容】 　まずは、第２次世界大戦後の欧州統合の歴史を概観する。そのうえで、20世紀末から活発化した、加盟国の 財政・経済政策と社会政策に対するEUによる調整の仕組みを見ていく。とくに、EUが2010年から取り組んでいる「欧州2020」戦略のもとでの「欧州セメスター」の役割と「欧州社会権の柱」の意義に焦点があてられる。 【授業計画】 第１回　イントロダクション：問題の所在 第２回　欧州統合の歴史① 第３回　欧州統合の歴史② 第４回　経済・通貨同盟 第５回　「裁量型調整方式（OMC）」による社会政策の調整の開始 第６回　社会的排除 第７回　社会的包摂 第８回　アクティベーションとフレキシキュリティ 第９回　EUシティズンシップの意義と限界 第10回　共通庇護・移民政策と移民統合政策 第11回　リスボン戦略から「欧州2020」へ 第12回　ユーロ危機と欧州セメスター 第13回　「欧州2020」の到達点 第14回　欧州社会権の柱と欧州社会同盟		
事前・事後学習の内容	受講に際しての予備知識は不要だが、毎回の授業の予習には、配布されるテキストの読解をはじめ、相当の時間を要する。		
評価方法	授業中の報告と学期末の研究報告書とにより成績を評価する。		
受講生へのコメント	社会政策の国際的な広がりに関心を寄せる諸君の受講を期待する。		
教材	テクストと参考文献は、授業中にそのつど指示をする。		

授業コード	EM30130010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代経済基礎研究Ⅸ-(2)：計量分析2		
英語科目授業名	Introduction to the Contemporary EconomyⅨ-(2):Econometrics2		
科目ナンバー	EMBAJ1515		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。 次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。 そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。 最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。 第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編 第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編 第３回_漸近理論の基礎 第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数 第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS 第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布 第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS 第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？ 第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS 第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編 第11回_因果関係を立証できるか？ 第12回_最尤法（1）：基礎編 第13回_最尤法（2）：プロビット 第14回_最尤法（3）：トービット 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量分析１とセットの科目です。前期に計量分析１を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	EM20071010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究		
英語科目授業名	Lecture on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EMTHJ1619		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	経済政策が政治過程を通じて決定される状況での経済成長や所得格差に関する研究論文を輪読する。		
授業の到達目標	上述の研究分野に関する近年の動向を理解した上で、今後の研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	本授業は対面により実施し、下記の内容を取り扱う。 第１回_Introduction 第２回_Endogenous Growth Model 1 第３回_Endogenous Growth Model 2 第４回_Static Voting Game 第５回_Dynamic Voting Game 第６回_Redistribution 1: Alesina and Rodrik (1994) 第７回_Redistribution 2: Persson and Tabellini (1994) 第８回_Redistribution 3: Hassler, Mora, Storesletten and Zilibotti (2003) 第９回_Education 1: Glomm and Ravikumar (1992) 第10回_Education 2: Saint-Paul and Verdier (1993) 第11回_Education 3: Galor and Moav (2006) 第12回_Public Debt 1: Alesina and Tabellini (1990) 第13回_Public Debt 2: Battaglini and Coate (2008) 第14回_Public Debt 3: Song, Storesletten and Zilibotti (2012)		
事前・事後学習の内容	受講生は事前に定められた論文を熟読の上で授業に臨むこと。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学（一般均衡理論、ゲーム理論（特に繰り返しゲーム）等）、マクロ経済学（Ramsey-Cass-Koopmansモデル、世代重複モデル等）、数学（微分積分、確率統計、静学的最適化理論、動学的最適化理論（特にダイナミック・プログラミング）等）の知識を前提とする。		
教材	第1回授業の際に提示する。		

授業コード	EM20081010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EMTHJ1620		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	経済政策が政治過程を通じて決定される状況での経済成長や所得格差に関する研究論文を輪読する。		
授業の到達目標	上述の研究分野に関する近年の動向を理解した上で、今後の研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	本授業は対面により実施し、下記の内容を取り扱う。 第１回_Introduction 第２回_Endogenous Growth Model 1 第３回_Endogenous Growth Model 2 第４回_Static Voting Game 第５回_Dynamic Voting Game 第６回_Redistribution 1: Alesina and Rodrik (1994) 第７回_Redistribution 2: Persson and Tabellini (1994) 第８回_Redistribution 3: Hassler, Mora, Storesletten and Zilibotti (2003) 第９回_Education 1: Glomm and Ravikumar (1992) 第10回_Education 2: Saint-Paul and Verdier (1993) 第11回_Education 3: Galor and Moav (2006) 第12回_Public Debt 1: Alesina and Tabellini (1990) 第13回_Public Debt 2: Battaglini and Coate (2008) 第14回_Public Debt 3: Song, Storesletten and Zilibotti (2012)		
事前・事後学習の内容	受講生は事前に定められた論文を熟読の上で授業に臨むこと。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学（一般均衡理論、ゲーム理論（特に繰り返しゲーム）等）、マクロ経済学（Ramsey-Cass-Koopmansモデル、世代重複モデル等）、数学（微分積分、確率統計、静学的最適化理論、動学的最適化理論（特にダイナミック・プログラミング）等）の知識を前提とする。		
教材	第1回授業の際に提示する。		

授業コード	EM20191010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関わる最新の研究に触れる。また、ミクロ経済学的視点（特に、インセンティブ）・計量経済学的視点（特に、内生性の問題）の研究における活かし方を学ぶ。		
授業の到達目標	最新の研究でどの様なことが、どの様にして、明らかになっているかを知る。また、それらにおけるミクロ経済学的視点・計量経済学的視点の活かされ方を知る。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている（NBER HPより）で取り上げられた論文を講義形式で紹介する。参考までに、前回同様の形式を取った際に扱った記事を以下に掲載する。 「Marriageability Concerns and Professional Ambitions」（2017年5月号） 「Managers' Bias and Workers' Job Performance」（2017年3月号） 「Putting Price Tags on Alternative Work Arrangements」（2016年12月号） 「Tuskegee, Trust in Doctors, and the Health of Black Men」（2016年8月号） 「Real Effects of Liquidity during the Financial Crisis」（2016年7月号） 「The Gambler's Fallacy」（2016年6月号） 「Tracking the Gifted Boosts High-Achieving Minorities」（2016年5月号） 「Testing versus Manager Discretion in Hiring」（2016年4月号） 第1回：ガイダンス 第2回～第14回：10本程度の記事について、1記事1～2回のペースで進める。		
事前・事後学習の内容	講義前に、NBER Digestの記事（HP: http://www.nber.org/digest/）と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。講義後は、関連する統計がどれ程取れるものか調べてみる。		
評価方法	主に、宿題により評価する。		
受講生へのコメント	研究計画にどう役立てられるかを考えながら取り組むとよい。		
教材	NBER Digestの記事、及び、その記事で取り上げられた元論文。		

授業コード	EM20201010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。		
授業の到達目標	各研究で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）の記事を輪読する。扱う記事については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、以下が、前回同様の形式を取った際に扱った記事の一部である。 「India's Demonetization Reduced Employment and Economic Activity」（2019年2月記事） 「The Falling Environmental Cost of U.S. Electricity Generation」（2019年2月記事） 「Benefits of Rooftop Solar Vary Widely across Major Regions of the Country」（2019年2月記事） 「Employees See Wage Gains when Small Firms Win Patents」（2019年3月記事） 「Women from Elite Colleges Earn More Because They Work More」（2019年4月記事） 「How Top Earners Make Money: Often, from Running a Business」（2019年5月記事） 「Why Some Regions Rebounded Faster after the Great Recession」（2019年5月記事） 「How Strongly Do Expectations about Returns Affect Portfolio Choice?」（2019年6月記事） 「Analyzing Efforts to Rein in Misinformation on Social Media」（2019年6月記事） 「Cancellation of Student Loans Led to a General Deleveraging」（2019年7月記事） 「Bright Lights, Fewer Serious Crimes in New York City Projects」（2019年7月記事） 第1回：ガイダンス 第2回～第14回：10本程度の記事について、1記事1～2回のペースで進める。		
事前・事後学習の内容	報告者は、報告回で出た疑問点について、ディスカッション回までに調べておく。また、関連する統計について調べる。報告者以外も、記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。		
評価方法	自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメントにより評価する。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。		
教材	大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）		

授業コード	EM21031010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EMTHJ1613		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	本授業は画面共有機能を用いて指示を出すことが望ましいため遠隔授業で実施する。 創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この講義では経済分野における近年の研究をサーベイする。		
授業の到達目標	複雑系を応用して経済現象を理解し、それを元に独自の研究課題を発見し、研究を遂行できる能力を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction 第15回_まとめと振り返り		
事前・事後学習の内容	文献内容のレジュメを作成する。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	コンピュータを用いたエージェント・ベース・シミュレーションに興味のある学生の受講を望む。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), “Emergent Results of Artificial Economics”, Springer, 2011		

授業コード	EM21041010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EMTHJ1614		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	本授業は画面共有機能を用いて指示を出すことが望ましいため遠隔授業で実施する。 エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピューター上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析するデータマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。		
授業の到達目標	複雑系経済学研究に必要なシミュレーション技能を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	ペア科目である「複雑系経済学研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現する。論文に掲載されている結果を再現することで、その結果が出るメカニズムを理解する。また、論文で取り上げられていない論点について討議する。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction 第15回_まとめとふりかえり		
事前・事後学習の内容	「複雑系経済学研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる図表を再現する。更に、論文で触れられていない論点を見つけてくる。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	JAVAによるプログラムが必要である。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	EM20171010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	社会思想史研究		
英語科目授業名	Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EMHIJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	ドイツの哲学者であるG.W.F.ヘーゲルの『法の哲学要綱（Grundlinien der Philosophie des Rechts）』を読解する。テキストは、できるかぎり日本語訳を使用する。		
授業の到達目標	『法の哲学要綱』の内容の体系的な理解と歴史的な意義の理解とをめざす。		
授業内容・授業計画	毎回の講義では、毎回の演習において履修生に報告してもらう予定の内容について、中村健吾が予備的な講義をする。		
事前・事後学習の内容	たとえ日本語訳をテキストとして使用するとしても、その内容の理解は困難であるから、とくにテキスト報告の準備は相当な時間を要するであろう。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	履修生は、ドイツ語の読解能力を有していることが望ましい。		
教材	【テキスト】 G.W.F.ヘーゲル『法の哲学Ⅰ』、『法の哲学Ⅱ』（中公クラシックス）。ヘーゲルの『法の哲学要綱』には数多くの日本語訳が存在するが、授業では上記のテキストだけが通用する。 履修生の様態によっては、次のドイツ語版をテキストとして使用する： G.W.F. Hegel, Werke in 20 Baenden; Bnad 7: Grundlinien der Philosophie des Rechts, Suhrkamp Verlag.		

授業コード	EM20181010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	社会思想史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on History of Social Thought		
科目ナンバー	EMHIJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	ドイツの哲学者であるG.W.F.ヘーゲルの『法の哲学要綱（Grundlinien der Philosophie des Rechts）』を読解する。テキストは、できるかぎり日本語訳を使用する。		
授業の到達目標	『法の哲学要綱』の内容の体系的な理解と歴史的な意義の理解とをめざす。		
授業内容・授業計画	毎回の演習では、中村健吾による予備的な講義をふまえて、テキストの内容について履修生に報告を課し、それに関する正確な理解を求める。		
事前・事後学習の内容	たとえ日本語訳をテキストとして使用するとしても、その内容の理解は困難であるから、とくにテキスト報告の準備には相当な時間を要するであろう。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	履修生は、ドイツ語の読解能力を有していることが望ましい。		
教材	【テキスト】 G.W.F.ヘーゲル『法の哲学Ⅰ』、『法の哲学Ⅱ』（中公クラシックス）。ヘーゲルの『法の哲学要綱』には数多くの日本語訳が存在するが、授業では上記のテキストだけが通用する。 履修生の様態によっては、次のドイツ語版をテキストとして使用する： G.W.F. Hegel, Werke in 20 Baenden; Bnad 7: Grundlinien der Philosophie des Rechts, Suhrkamp Verlag.		

授業コード	EM20151010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済学説史研究		
英語科目授業名	Lecture on History of Political Economy		
科目ナンバー	EMHIJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	この講義では、資本主義や市場経済の動態とそれが抱える問題を長期的な歴史的展望のもとに把握した、制度の経済学思想家たちを取り上げる。今年度は、「社会的共通資本」という考え方を提唱した、宇沢弘文（1928～2014）の生涯と思想形成を追跡しながら、同時に、社会的共通資本の概念についての理解を深めます。		
授業の到達目標	宇沢弘文の経済思想について理解し、明快かつ論理的に報告し、質疑によって理解を深める。		
授業内容・授業計画	２つのテキストを輪読し、担当箇所を精読したうえでレジュメを作成・報告し、質疑を行う。大まかな予定は以下の通り。 第１回_イントロダクション 第２回_宇沢弘文の生涯① 第３回_宇沢弘文の生涯② 第４回_宇沢弘文の思想形成①　アローとの出会い 第５回_宇沢弘文の思想形成②　フリードマンとの闘い 第６回_宇沢弘文がみたアメリカと日本の「戦後」 第７回_自動車の社会的費用① 第８回_自動車の社会的費用② 第９回_社会的共通資本① 第10回_社会的共通資本② 第11回_社会的共通資本③ 第12回_宇沢弘文のリベラリズム① 第13回_宇沢弘文のリベラリズム② 第１４回_総括		
事前・事後学習の内容	①各回で取り上げる箇所に目を通すこと。 ②プレゼン資料をWebclassにアップするので、それをダウンロードし内容を復習すること。 ③理解が不十分と認識したり指摘されたりした点について、研究書や学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	学期末に、講義内容を踏まえて自身の研究テーマと関連付けたレポート提出を求める。詳細は講義中に指示し、Webclassでも掲示する。		
受講生へのコメント	①テキストは2冊指定し、補完的に使用します。輪番の割り振りなどに影響するので、かならず2冊とも手元に置いて初回の授業に出席してください。 ②報告と質疑を重視するこの授業は、今年度については、オンラインおよび対面を組み合わせて実施することになります。Webclassおよびメールを連絡手段や教材の共有手段として使用します。 ③オンラインで対応できるよう、協力をお願いします。 ④わからないことがあれば、質問してください。 ⑤積極的な参加を期待します。		
教材	テキストは2冊指定する。この2冊を購入してから、最初の授業に出席すること。 ①宇沢弘文『社会的共通資本』 岩波新書、 2000年。 ②佐々木実　『資本主義と闘った男』講談社、2019年。		

授業コード	EM20161010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済学説史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on History of Political Economy		
科目ナンバー	EMHIJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	経済学説史研究の方法を習得し、市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する知見を吸収し、自らの研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに質疑・研究指導を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_受講者の報告① 第３回_受講者の報告② 第４回_受講者の報告③ 第５回_テーマの設定と文献の探し方① 第６回_テーマの設定と文献の探し方② 第７回_テーマの設定と文献の探し方③ 第８回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ① 第９回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ② 第10回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ③ 第11回_研究レポートの作成と中間報告① 第12回_研究レポートの作成と中間報告② 第13回_研究レポートの作成と中間報告③ 第14回_総括		
事前・事後学習の内容	①各自の研究テーマとそれを取り上げることの意義について他者に明確に伝えるよう日々努力すること。 ②各自の研究テーマの先行研究についてよく調べてリストを作ること。 ③とりわけ重要な資料について報告するための資料を作成すること。Webclassで提出を求めることがあります。 ③演習のなかで理解が不十分であると認識したり指摘されたりした点について、改善すること。 ④各自の研究テーマに関するレポートを中間報告し、コメントされた点を反映したレポートを期末に提出すること。提出方法は、Webclassで掲示します。		
評価方法	出席態度、およびレポート等から総合的に判断する。		
受講生へのコメント	①報告や質疑が中心となりますが、今年度はオンラインと対面式のどちらでも実施できる態勢にします。各自、オンラインで受講できるよう、対応をお願いします。 ②Webclassとメールを使って、連絡および情報を共有します。 ③各自の研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけてください。 ④わからないことがあれば質問してください。		
教材	授業のなかで参考文献を提示することがあります。		

授業コード	EM20711010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済史研究		
英語科目授業名	Lecture on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EMHIJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	主題は日本経済史の講義であるが、本学期は都市経済史の諸課題を取り上げたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。また日本の都市と比較するため、中国の都市も議論の対象としたい。		
授業の到達目標	経済史の基礎知識を固める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。 第１回_オリエンテーション 第２回_都市史研究の現状 第３回_日本の商業都市：大阪 第４回_中国の商業都市：蘇州 第５回_日本の貿易港市：長崎 第６回_中国の貿易港市：広州 第７回_史料の解析：都市の商業空間 第８回_史料の解析：都市運営 第９回_史料の解析：インフラ整備 第10回_史料の解析：都市と流通 第11回_事例紹介：満州国の「新京」 第12回_事例紹介：植民地時代の台北 第13回_総合議論-新しい方法論- 第14回_総合議論-学位論文の作成に向けて- ＊講義の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	テキスト、特になし。 学術雑誌『都市史研究』各号、吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市』 4冊（東京大学出版会、2010年）、『日本都市史入門 』3冊（東京大学出版会、1989～1990年）などから論文を選んで輪読のテキストとする。		

授業コード	EM20721010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EMHIJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	経済史研究および修士・博士学位論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための研究報告を実施する。		
授業の到達目標	史料の読解力やデータの分析力を高めることと、学位論文の研究を計画通り進めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。 第１回_オリエンテーション 第２回_研究構想の発表　グループ１ 第３回_研究構想の発表　グループ２ 第４回_先行研究のまとめ　グループ１ 第５回_先行研究のまとめ　グループ２ 第６回_史料調査 第７回_史料調査の報告 第８回_史料研究ノート　グループ１ 第９回_史料研究ノート　グループ２ 第10回_第1次研究発表　グループ１ 第11回_第1次研究発表　グループ２ 第12回_第2次研究発表　グループ１ 第13回_第2次研究発表　グループ２ 第14回_全体議論 ＊内容が変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	とくになし		

授業コード	EM20571010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Japanese Economy		
科目ナンバー	EMAPJ1633		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。		
授業の到達目標	わが国の家計行動の解明や家計の視点に重点をおいた政策評価、今後望まれる政策の探求への取り組みを深める。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト、参考文献は授業中に指示する。		

授業コード	EM20581010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Japanese Economy		
科目ナンバー	EMAPJ1634		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討したい。		
授業の到達目標	家計行動の側面から捉えた日本経済の課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト、参考文献は授業中に指示する。		

授業コード	EM20371010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	金融経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Monetary Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1617		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。出席者には報告を行ってもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(1)(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(1)(サーベイ) 第４回_金融契約理論(1)(基本モデル) 第５回_金融契約理論(1)(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(1)(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(1)(結論) 第８回_金融契約理論(2)(イントロダクション) 第９回_金融契約理論(2)(サーベイ) 第10回_金融契約理論(2)(基本モデル) 第11回_金融契約理論(2)(拡張モデル) 第12回_金融契約理論(2)(インプリケーション) 第13回_金融契約理論(2)(結論) 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業内容を復習しておくこと。		
評価方法	平常点(受講態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	十分な予習・復習時間を確保してください。 履修希望者は、第１回目の授業に必ず参加してください。途中参加の場合、他の履修者に迷惑がかかります。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	EM20381010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	金融経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Monetary Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1618		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学ぶ。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、批判する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(3)(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(3)(サーベイ) 第４回_金融契約理論(3)(基本モデル) 第５回_金融契約理論(3)(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(3)(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(3)(結論) 第８回_金融契約理論(4)(イントロダクション) 第９回_金融契約理論(4)(サーベイ) 第10回_金融契約理論(4)(基本モデル) 第11回_金融契約理論(4)(拡張モデル) 第12回_金融契約理論(4)(インプリケーション) 第13回_金融契約理論(4)(結論) 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業内容を復習しておくこと。		
評価方法	平常点(受講態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。 第1回目の授業はオリエンテーションです。金融経済研究の授業時間に行います。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	EM20811010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	地方財政論研究		
英語科目授業名	Lecture on Local Public Finance		
科目ナンバー	EMAPJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。		
授業の到達目標	地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解できる基礎的な力をつけること。		
授業内容・授業計画	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition), MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、 Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。 （受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。） 第１回　イントロダクション 第２回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Introduction / Definitions- 第３回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Single-Product Clubs- 第４回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -The Tiebout Hypothsis- 第５回　Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Empirical Tests- 第６回　Ch.19 Fiscal Federalism -Introduction / Arguments for Multi-level Government- 第７回　Ch.19 Fiscal Federalism -Optimal Structure: Efficiency vs Stability- 第８回　Ch.19 Fiscal Federalism -Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets- 第９回　Ch.19 Fiscal Federalism -Evidence on decentralization- 第10回　Ch.20 Fiscal Competition -Introduction- 第11回　Ch.20 Fiscal Competition -Tax Competition- 第12回　Ch.20 Fiscal Competition -Income Distribution- 第13回　Ch.20 Fiscal Competition -Intergovernmental Transfers- 第14回　Ch.20 Fiscal Competition -Evidence-		
事前・事後学習の内容	当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。 また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。		
評価方法	報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。		
受講生へのコメント	指定する文献は、英語で書かれさらに数式モデルの展開が含まれるが、少なくとも大意をつかんでもらうような予習および発表をしてもらえれば、後は担当教員がフォローする。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Press		

授業コード	EM20821010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	地方財政論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Local Public Finance		
科目ナンバー	EMAPJ1628		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する問題意識から、関連する最近の先行研究をサーベイする。 さらに、リサーチクエスチョンに対する仮説を構築し、データを用いた実証研究をおこなう。		
授業の到達目標	地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイができる基礎力を養うこと、 また、実証分析によってオリジナルな知見を習得できる力もつけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。 第１回　演習の進め方 第２回　サーベイ方法 第３回　問題意識、課題の鮮明化と仮説構築 第４回　仮説の検証戦略 第５回　実践　問題意識の鮮明化 第６回　実践　課題の鮮明化 第７回　実践　仮説構築 第８回　実践　仮説の検証戦略 第９回　中間発表 第10回　実践　調査分析（前）　−データ収集・データマイニング− 第11回　実践　調査分析（中）　−予備的分析− 第12回　実践　調査分析（後）　−回帰分析− 第13回　最終発表１　　−グループ1の発表− 第14回　最終発表２　　−グループ2の発表−		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	修士論文（修了論文）に使える調査研究になればよいと思います。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition) Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)		

授業コード	EM20351010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	流通経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Distribution Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1615		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済に関係する応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の解説を行う。取り上げる分野は、垂直構造、差別化戦略、外部性、エージェンシー理論、メカニズムデザイン、さらにはマーケティング関連を予定している。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　大学院レベルのミクロ経済学の基礎知識を理解すること ２　１で理解した知識を活用して、流通経済における現象を経済学的ロジックで理解できること		
授業内容・授業計画	第１回_講義の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んでくること。事後には、授業ノートをもとに理解を深めること。		
評価方法	到達目標１～2の達成度で評価を行う 成績を評価する手段としてはレポートを用いる。 講義内で紹介する関連論文から各自１本を取り上げて、レポートを作成する。 単位を取得するためには、正確に内容を理解していることが求められる。		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みあるいは履修中であることを前提とする。		
教材	毎回、テキストの論文を配布する。		

授業コード	EM20361010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	流通経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Distribution Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1616		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行う。取り上げる分野は、垂直構造、差別化戦略、外部性、エージェンシー理論、メカニズムデザイン、さらにはマーケティング関連を予定している。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　大学院レベルのミクロ経済学の基礎的内容を理解すること ２　１で理解した知識を活用して、流通経済における現象を経済学的ロジックで理解できること		
授業内容・授業計画	第１回_演習の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んでくること。事後には、授業ノートをもとに理解を深めること。		
評価方法	到達目標１～2の達成度で評価を行う 単位を取得するためには、各回取り上げる論文の内容を正確に理解していることが求められる。 評価は各回のディスカッションへの参加状況への評価を総計して行う。		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とする		
教材	テキストは特になし。参考書は適宜指示する。		

授業コード	EM20910010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	福祉経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Welfare Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1637		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	福祉や公共政策に関する応用ミクロ研究、特にマイクロデータを用いた実証分析を行うために必要な基礎的な能力を習得する。近代経済学における因果推論に関する典型的な手法を理解する。		
授業の到達目標	当該分野で用いられている代表的な分析手法を習得し、最先端の研究論文を理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業（リアルタイム・発展）に変更される場合がある。 前半は計量経済学を用いた実証分析、特に因果推論に関する入門的なテキストおよび関連研究を輪読する。 後半は受講生の研究テーマに関連の深い最新の研究を取り上げて議論を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読（Introduction to Causal Inference） 第３回_テキスト輪読（Randomized Control Trial） 第４回_テキスト輪読（Natural Experiment） 第５回_テキスト輪読（Regression Discontinuity Design） 第６回_テキスト輪読（Instrumental Variable） 第７回_テキスト輪読（Difference-in-Differences） 第８回_テキスト輪読（Other Issues） 第９回_関連研究報告1 第10回_関連研究報告2 第11回_関連研究報告3 第12回_関連研究報告4 第13回_関連研究報告5 第14回_総括		
事前・事後学習の内容	参加者は事前に指定された資料を読み、不明点を明確にしておくこと。 報告担当者は準備に十分な時間をとり、適宜スライドやレジュメを作成すること。		
評価方法	講義内での報告、議論への参加、および最終レポートによって総合的に評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学・計量経済学の知識を有していることが望ましい。 講義内では英文資料を参照する場合がある。 扱うテーマは福祉経済に限定せず、マイクロデータを用いた経済学全般の実証分析に関心のある学生の受講を歓迎する。 質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	受講者の関心のあるテーマおよび習熟度を考慮して初回講義で決定する。		

授業コード	EM20920010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	福祉経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Welfare Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1638		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	福祉や公共政策に関する応用ミクロ研究、特にマイクロデータを用いた実証分析を行うために必要な基礎的な能力を習得する。 最新の研究論文を参考にして具体的な経済分析の手法に関する理解を深める。		
授業の到達目標	当該分野で用いられている代表的な分析手法を習得し、最先端の研究論文を理解できるようになること。 マイクロデータを用いた計量経済分析を行い、実証的な学位論文を作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業（リアルタイム・発展）に変更される場合がある。 前半は受講生の研究テーマに関連の深い最新の研究を取り上げ、その方法論、データ、発展性などについて議論する。 後半は受講生自身の研究について報告および議論を行い、研究を進展させる。 第１回_ガイダンス 第２回_研究テーマの選定 第３回_先行研究の報告と議論1 第４回_先行研究の報告と議論2 第５回_先行研究の報告と議論3 第６回_先行研究の報告と議論4 第７回_先行研究の報告と議論5 第８回_先行研究の報告と議論6 第９回_受講者による研究報告と議論1 第10回_受講者による研究報告と議論2 第11回_受講者による研究報告と議論3 第12回_受講者による研究報告と議論4 第13回_受講者による研究報告と議論5 第14回_受講者による研究報告と議論6		
事前・事後学習の内容	参加者は関連研究をよく読み、論点および不明点を明確にしておくこと。 報告担当者は準備に十分な時間をとり、適宜スライドやレジュメを作成すること。		
評価方法	講義内での報告、議論への参加、および最終レポートによって総合的に評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学・計量経済学の知識を有していることが望ましい。 講義内では英文資料を参照する場合がある。 扱うテーマは福祉経済に限定せず、マイクロデータを用いた経済学全般の実証分析に関心のある学生の受講を歓迎する。 質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	必要に応じて講義内で紹介する。		

授業コード	EM20930010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業政策論研究		
英語科目授業名	Lecture on Industrial Policy		
科目ナンバー	EMAPJ1639		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学（特に産業組織論）の観点から分析するための手法を学ぶ。特に、実証研究（実証産業組織論）に際するトピックについて扱う。		
授業の到達目標	・政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学的な手法で分析できるようになる。 ・産業組織論の実証研究を行うための基礎を養成する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 スライドを用いて講義形式で行う。講義内で簡単な問題演習を実施する場合がある。 第１回　イントロダクション 第２回　需要推定と離散選択モデル 第３回　離散選択モデルの応用と推定上の論点（1） 第４回　離散選択モデルの応用と推定上の論点（2） 第５回　生産関数の推定と関連する論点（1） 第６回　生産関数の推定と関連する論点（2） 第７回　構造推定とデータ分析 第８回　動学的モデルとその推定（1） 第９回　動学的モデルとその推定（2） 第10回　企業合併の経済学（1） 第11回　企業合併の経済学（2） 第12回　実証産業組織論におけるその他の論点（1） 第13回　実証産業組織論におけるその他の論点（2） 第14回　実証産業組織論におけるその他の論点（3）		
事前・事後学習の内容	講義資料に基づいて予習・復習を行うこと。		
評価方法	宿題と授業態度によって評価する。		
受講生へのコメント	少なくとも学部上級レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識を有すること。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：授業の中で適宜指示する。		

授業コード	EM20940010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業政策論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Industrial Policy		
科目ナンバー	EMAPJ1640		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	実証産業組織論の代表的な論文を輪読する。		
授業の到達目標	・政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学的な手法で分析できるようになる。 ・実証産業組織論の基礎的な手法について理解する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 実証産業組織論に関する代表的な論文を受講者に割り当てて輪読する。論文担当者は事前に発表用のスライドを作成し、講義内で発表を行う。なお、対象論文の候補は開講時に教員から提示し、受講者は自らの関心に応じて選択できるようにする。 第１回_ガイダンス 第２回_論文の紹介と割当 第３回_論文発表（1） 第４回_論文発表（2） 第５回_論文発表（3） 第６回_小括、補足（1） 第７回_論文発表（4） 第８回_論文発表（5） 第９回_論文発表（6） 第10回_小括、補足（2） 第11回_論文発表（7） 第12回_論文発表（8） 第13回_論文発表（9） 第14回_講義のまとめ		
事前・事後学習の内容	十分余裕を持って担当論文を読み、発表資料を作成すること。		
評価方法	発表内容、授業態度、議論への参加状況を踏まえて総合的に評価する。		
受講生へのコメント	少なくとも学部上級レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識を有すること。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：授業の中で適宜指示する。		

授業コード	EM20631010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1609		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア各国を経済面、社会面、文化面から多角的に分析する。		
授業の到達目標	東南アジア地域の経済発展とそれに伴う社会や文化の変容について理解を深めることを目的とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、東南アジア地域の経済を政治制度・経済制度・文化・社会などから多角に分析する。 その中で主要な開発経済学の理論も紹介する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題、中国との結びつき、ジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。 第１回：イントロダクション 第２回：東南アジアの概略 第３回：人口と経済開発 第４回：農村と都市 第５回：教育と健康 第６回：農村開発 第７回：工業化と産業集積 第８回：国際貿易 第９回：国際労働移動 第１０回：拡大する消費市場 第１１回：社会保障制度と高齢化社会 第１２回：開発と環境 第１３回：所得格差と貧困問題 第１４回：市民社会 定期試験		
事前・事後学習の内容	英語などの配布資料を用いて復習すること。授業中に指示する参考文献に関するレポートを課すこともある。		
評価方法	レポート35%期末試験65%		
受講生へのコメント	授業中に与えるテーマに関して小レポートを作成・提出してもらいます。		
教材	テキスト：特になし。 参考書・参考資料等Witt, M.A. & G. Redding eds. (2014) The Oxford Handbook of Asian Business Systems, Oxford University Press.		

授業コード	EM20641010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1610		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、修士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。		
授業の到達目標	文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回、論文の輪読と議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する英語などの外国語論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	文献を読み込む時間を十分にとってください。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	EM20011010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済理論研究		
英語科目授業名	Lecture on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EMTHJ1601		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が、理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った 疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	EM20021010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済理論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EMTHJ1602		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される、世代重複モデルの基本が理解でき、さらに自分で運用ができるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方がどのように変わるかを、参加者自ら報告・計算もしながら検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った 疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I・IIを、履修済みであることが望ましい。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	EM20111010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	数量経済分析論研究		
英語科目授業名	Lecture on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EMTHJ1625		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済発展論において、いくつかの視点から理論分析を行う。		
授業の到達目標	経済発展に関するいくつかのテーマを学びながら、理論分析が理解できるようになる。		
授業内容・授業計画	この講義は対面で行う。 各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_経済発展論：イントロダクション 第３回_貧困の罠：説明 第４回_貧困の罠：投資、教育、出生 第５回_理論分析に関する数学の復習 第６回_経済発展の可能性：説明 第７回_経済発展の可能性：生産技術 第８回_経済発展の可能性：教育、その他 第９回_複数均衡：生産技術 第10回_複数均衡：所得格差と絡めて 第11回_Unified growth theory：説明 第12回_Unified growth theory：サーベイ 第13回_経済発展論：補足 第14回_統計分析：説明		
事前・事後学習の内容	この講義でメインで使う講義資料は最初の講義のときに配布します。よって、各講義において、事前に内容を確認し、講義に受けてください。そして、授業のあと、復習してください。		
評価方法	講義の出席（1/4)，講義内発表(1/4)，とレポート（1/2)により評価する。レポートの内容は、講義内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	EM20121010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	数量経済分析論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EMTHJ1626		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	自らのテーマ選定のもと、既存の理論分析または統計分析を報告する。		
授業の到達目標	既存の研究論文をもとに具体的な分析を各自報告し、経済理論と実証分析への理解を深めていく。		
授業内容・授業計画	この演習は、対面で行います。 各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_イントロダクション（ガイダンス） 第２回_テーマ選定 第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察 第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討 第５回_報告から必要となった理論分析の学習 第６回_報告から必要となった統計分析の学習 第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講） 第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察 第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討 第１０回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討 第１１回_報告から必要となった理論分析の復習 第１２回_報告から必要となった統計分析の復習 第１３回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す） 第１４回_これまでの発表の中から選定し再発表		
事前・事後学習の内容	予習として、研究論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、自ら補足すること。		
評価方法	演習の出席（1/4），演習内発表(1/4)，とレポート（1/2)により評価する。レポートの内容は、演習内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	EM20451010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1607		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	EM20461010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EMTHJ1608		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	EM20031010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究		
英語科目授業名	Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EMTHJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	「現代資本主義」はどのような特徴をもっているか？　それはしばしば「新自由主義」「認知資本主義」「レント資本主義」「プラットフォーム資本主義」といった形で呼ばれるが、それらはどういった特性をもっているのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、現代資本主義の特性とその矛盾（経済格差、恐慌、環境破壊など）について考察していく。その際には、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則、転形問題などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほどの妥当性を持つのかについても検討していきたい。		
授業の到達目標	自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。 読んだ研究文献を元にレジュメ作成・研究報告を行い、ディスカッションを行う。		
授業内容・授業計画	昨年度はフェデリーチ『キャリヴァンと魔女』を詳細に検討した。今年度は、「人新世」をテーマに輪読を行う（受講者の関心次第で変更の可能性有）。　関連テーマについての研究報告も歓迎する。 以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。 第１回_イントロダクション 第２回_人新世とは何か 第３回_コロナ危機① Andreas Malm 第４回_コロナ危機② ロベール・ボワイエ 第５回_コロナ危機③ スラヴォイ・ジジェク 第６回_気候変動 ① ジェレミー・リフキン 第７回_気候変動 ② ナオミ・クライン 第８回_資本新世① Jason W. Moore 第９回_資本新世② John Bellamy Foster 第10回_脱成長① Giorgos Kallis 第11回_脱成長② Serge Latouche 第12回_脱成長③ Kate Soper 第13回_エコ社会主義」 第14回_コミュニズム		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。 関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	その度ごとに指定し、配布する。 英語論文が中心となるので注意されたい。		
教材	参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。		

授業コード	EM20041010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EMTHJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	現代資本主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。		
授業の到達目標	英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。		
授業内容・授業計画	引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて現代資本主義についての考察を深める。 違ったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。 第１回_イントロダクション 第２回_人新世とは何か 第３回_コロナ危機① Andreas Malm 第４回_コロナ危機② ロベール・ボワイエ 第５回_コロナ危機③ スラヴォイ・ジジェク 第６回_気候変動 ① ジェレミー・リフキン 第７回_気候変動 ② ナオミ・クライン 第８回_資本新世① Jason W. Moore 第９回_資本新世② John Bellamy Foster 第10回_脱成長① Giorgos Kallis 第11回_脱成長② Serge Latouche 第12回_脱成長③ Kate Soper 第13回_エコ社会主義」 第14回_コミュニズム		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。 事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるように心がけたいと思っています。		
教材	その度ごとに指定する。		

授業コード	EM20131010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	統計理論研究		
英語科目授業名	Lecture on Statistics		
科目ナンバー	EMTHJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。 なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になることがある。		
授業の到達目標	欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。		
授業内容・授業計画	テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。 第１回_ガイダンス 第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節 第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節 第４回_第9章　推定（1）1節2節 第５回_第9章　推定（2）3節4節 第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節 第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節 第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論 第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節 第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節 第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節 第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節 第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節 第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節		
事前・事後学習の内容	学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。 予復習は必須である。		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	基礎こそ大事です！		
教材	森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣		

授業コード	EM20141010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	統計理論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Statistics		
科目ナンバー	EMTHJ1628		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の基礎理論を学ぶ。基礎的な計量経済学の手法である、相関、線形回帰、区間推定、検定、時系列分析、多変量解析を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになるのが目標である。理論より応用に重点をおく。こちらの演習では、問題演習を行う。 なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になることがある。		
授業の到達目標	欧米の大学院で標準的なコアコースで取り上げられる計量経済学手法を実際のデータに適用し、その分析結果を解釈できるようになること。		
授業内容・授業計画	テキストとしては，有斐閣NLASシリーズ『統計学』を使い，輪読形式で学ぶ．また，問題練習として，章末問題を解く．なお、内容に関しては受講者に合わせて微調整する余地があるので、要望をガイダンスの際に述べてほしい。こちらの演習では、問題演習を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_第4章　相関と回帰（1）1節2節 第３回_第4章　相関と回帰（2）3節4節 第４回_第9章　推定（1）1節2節 第５回_第9章　推定（2）3節4節 第６回_第10章　仮説検定（1）1節2節 第７回_第10章　仮説検定（2）3節4節 第８回_第10章　仮説検定（3）5節補論 第９回_第11章　回帰分析の統計理論（1）1節2節 第10回_第11章　回帰分析の統計理論（2）3節4節5節 第11回_第12章　時系列分析の基礎（1）1節2節3節 第12回_第12章　時系列分析の基礎（2）4節5節6節 第13回_第13章　多変量解析の基礎（1）1節2節 第14回_第13章　多変量解析の基礎（2）3節4節		
事前・事後学習の内容	学部レベルの統計学、計量経済学を履修していることが望ましい。 予復習は必須である。		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	問題演習をいつするか？今でしょ！		
教材	森棟他（2015）『統計学（NLASシリーズ）＜改訂版＞』有斐閣		

授業コード	EM21211010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	西洋経済史研究		
英語科目授業名	Lecture on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EMHIJ1613		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	近年の西洋経済史の研究動向の概説をテキストに基づいて行う。最近の経済史の概説では、英米の研究紹介が中心になることが多いが、欧米とアジアの研究動向にも触れてみたい。		
授業の到達目標	教員の講義を通じて、近年の西洋経済史の研究動向を理解できるようにすることである。		
授業内容・授業計画	この授業では、近年西洋経済史で影響力を持ちつつある、ポメランツ『大分岐ー中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』を基に講義を行う。この著書は、西洋経済史における新しい視角を提示している。この著作の内容を解説する形で、授業を進めて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_ヨーロッパ経済発展のさまざまな比較、説明、叙述 第３回_ヨーロッパはアジアよりも早く発展したか 第４回_ヨーロッパとアジアにおける市場経済 第５回_奢侈的消費と資本主義の勃興 第６回_見える手 第７回_共通の制約 第８回_土地の制約を外す 第９回_一人当たり陸上輸送能力の推計 第10回_18世紀末の中国北部とヨーロッパにおける施肥推計 第11回_フランス、嶺南、そして一部の中国北部の森林と燃料供給の推計 第12回_イギリスへの商品輸入がもたらした「幻の耕地の推計」 第13回_中国長江下流農村における織物労働者の稼得能力推計 第14回_1750年とそれ以降における、長江下流域および中国全体としての綿花生産と生糸生産の推計		
事前・事後学習の内容	授業の前に、テキストで指定する章を予め読んできてください。		
評価方法	授業への出席と質疑応答等の積極性、レポート等を加味して評価を行う。		
受講生へのコメント	経済史に関心を持つ院生の方々を歓迎します。この授業は対面授業で行います。		
教材	K.ポメランツ『大分岐ー中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年；塩谷昌史『ロシア綿業発展の契機』知泉書館、2014年。		

授業コード	EM21221010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	西洋経済史研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EMHIJ1614		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	近年、西洋経済史研究で重要な概念や方法を提示した文献を授業の中で輪読し、教員がその内容を解説すると同時に、演習の参加者にその概念や方法を個々人の研究の中でどのように応用していけるのかについて、議論することを中心にする。		
授業の到達目標	近年の西洋経済史研究の中で重要と思われる概念と方法を理解し、その応用を考えられるようになることを到達目標としたい。		
授業内容・授業計画	教員の方で重要と思われる、西洋経済史研究の文献リストを予め準備するが、演習の参加者の興味・関心によっては、文献リストの変更も考えている。西洋経済史の主要な概念の理解を目的としているが、他方で院生の研究に資するような文献も取り上げたいと考えている。オリエンテーションで、教員の方向性と院生の方々との関心の調整を行いたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_大塚久雄『近代欧州経済史序説』 第３回_ウォーラーステイン『近代世界システム』 第４回_オブライエン『帝国主義と工業化』 第５回_カーティン『異文化間交易の世界史』 第６回_Caracausi; Jeggle (ed) Commercial Networks and European Cities 第７回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介① 第８回_ノース『制度・制度変化・経済成果』 第９回_Van Zanden, The Long Road to the Industrial Revolution 第10回_Riello, Cotton:The Fabric that made the Modern World 第11回_Mokyr, A Culture of Growth: The Origins of the Modern Economy 第12回_フランク『リオリエント』 第13回_ポメランツ『大分岐』 第14回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介②		
事前・事後学習の内容	授業の前の週に輪読するテキストを指定するので、事前にテキストを読んできてください。		
評価方法	授業中の質疑応答や、各院生の研究の中間報告の内容等を総合して評価したい。		
受講生へのコメント	教員への要望は、できる限り取り入れて行きたいと考えているので、遠慮なく相談してください。この授業は、対面授業で行います。		
教材	テキストや参考書は、その都度、授業の中で指示します。		

授業コード	EM20211010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	社会政策論研究		
英語科目授業名	Lecture on Social Policy		
科目ナンバー	EMHIJ1605		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策・人口問題の専門知識を習得する。		
授業の到達目標	社会政策と人口問題の今日的動向について理解を深める。		
授業内容・授業計画	社会政策と人口問題の専門知識を提供する。 第１回_　ガイダンス 第２回_　変わる人口潮流 第３回_　日本の人口動向① 第４回_　日本の人口動向② 第５回_　長寿化とその影響 第６回_　少子化とその影響 第７回_　ライフコースの多様化とその影響 第８回_　世界の人口動向① 第９回_　世界の人口動向② 第10回_　世界の人口動向③ 第11回_　少子高齢化時代の政策論議① 第12回_　少子高齢化時代の政策論議② 第13回_　人口変動時代の社会政策 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	講義内で指示する課題に取り組むとともに、予習復習を心がける。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	EM20221010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	社会政策論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Social Policy		
科目ナンバー	EMHIJ1606		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策・人口問題に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。		
授業の到達目標	社会政策・人口問題に関する文献資料を読み解き、社会政策に関する研究報告をする。		
授業内容・授業計画	文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。 第１回_　ガイダンス 第２回_　文献資料の要約報告と討論　人口動向 第３回_　文献資料の要約報告と討論　生き方の変化 第４回_　文献資料の要約報告と討論　世界と日本 第５回_　文献資料の要約報告と討論　将来の人口 第６回_　文献資料の要約報告と討論　人口問題と社会政策 第７回_　文献資料の要約報告と討論　社会保障改革 第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１の報告 第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２の報告 第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３の報告 第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４の報告 第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５の報告 第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６の報告 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	EM20831010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	産業経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Industrial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1629		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	規制の経済理論および先進諸国における規制政策について報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	産業の規制政策に関する理論および先進諸国における規制政策について説明できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定） 第２回_Introduction to Economic Regulation 第３回_Theory of Natural Monopoly 第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power 第５回_Franchise Bidding and Cable Television 第６回_Public Enterprise 第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications 第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods 第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines 第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas 第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries 第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries 第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。		
教材	Mizutani, F. (2012) Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience, Cheltenham, UK: Edward Elgar. Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.		

授業コード	EM20841010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	産業経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Industrial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1630		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）専攻する分野を概説することができること。 （２）専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 （３）専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方 第２回_レポートのまとめ方 第３回_テーマ選択 第４回_先行研究 第５回_現状把握（１）−制度− 第６回_現状把握（２）−データ収集− 第７回_中間レポートの報告 第８回_分析手法 第９回_データ分析（１）−データ整理− 第10回_データ分析（２）−プログラミングとパイロットテスト− 第11回_データ分析（３）−モデル推定− 第12回_分析結果の考察 第13回_課題論文の報告 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。		
教材	特になし。		

授業コード	EM20890010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	空間経済学研究		
英語科目授業名	Lecture on Spatial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1636		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・空間経済学の主要なモデルを理解できるようになること． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． ・スライドを用いた講義を行う． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competition 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Models 第11回_Quasi-Linear Models 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Heterogeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておくこと．		
評価方法	課題や討論における質および取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・大学院レベルのミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	EM20900010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	空間経済学研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Spatial Economics		
科目ナンバー	EMAPJ1635		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること． ・関連する英語論文を読み，その内容を理解した上で，問題点や拡張などについて議論できるようになること．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． ・関連する英語論文を読み，その内容や問題点，拡張などについて議論する． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competition 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Models 第11回_Quasi-Linear Models 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Heterogeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：演習課題についてよく復習しておくこと．		
評価方法	課題やプレゼンテーション，討論の質・取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・大学院レベルのミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	EM20611010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	東アジア経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EMGRJ1607		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済の分析理論に関する知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考え、分析する能力を身につけることを達成目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。 第1回　イントロダクション:講義の進め方 第2回　植民地近代化論:植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業論：先進国と中進国 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済:鄧小平の挑戦 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	EM20621010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	東アジア経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EMGRJ1608		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う基本的能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）東アジア経済について概説する能力があること。 （２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。 （３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。 　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。 第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。 第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。 第11回から第14回、院生による研究発表と討論。 第1回　イントロダクション：講義の進め方 第2回　植民地近代化論：植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業：先進国と中進国の新たな貿易関係 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：毛沢東と鄧小平 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	EM20870010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	世界経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on World Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1627		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 -この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 -農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 -その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション -工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ -手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 -間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 -WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 -国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 -線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 -基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション -勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 -それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 -2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 -ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	EM20880010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	世界経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on World Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1628		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 -この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 -農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 -その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション -工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ -手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 -間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 -WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 -国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 -線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 -基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション -勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 -それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 -2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 -ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	EM20771010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	国際経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on International Economics		
科目ナンバー	EMGRJ1621		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。		
授業の到達目標	経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深めることが最大の目標となる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業 第３回_農村信用 第４回_教育 第５回_労働移動 第６回_工業化 第７回_技術 第８回_開発金融 第９回_開発援助 第10回_持続可能な開発 第11回_課題報告　農業 第12回_課題報告　教育 第13回_課題報告　労働 第14回_課題報告　工業		
事前・事後学習の内容	テキストの予習と報告内容の復習を行う。		
評価方法	分担報告。		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	講義中に指示する。		

授業コード	EM20781010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	国際経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on International Economics		
科目ナンバー	EMGRJ1622		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	発展途上国経済に関する文献を読む。		
授業の到達目標	大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得る。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_不平等 第３回_貧困 第４回_人口 第５回_高齢化 第６回_教育 第７回_健康 第８回_農業発展 第９回_ミクロ経済学的視点 第10回_国際貿易 第11回_貿易理論 第12回_国際収支 第13回_経済危機 第14回_開発援助		
事前・事後学習の内容	事前に毎回の内容を読み終えておくことが求められる。 毎回の内容から関心の強い分野をレポートとしてまとめる。		
評価方法	分担報告のレポート		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	演習中に指示する。		

授業コード	EM20591010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	中国経済論研究		
英語科目授業名	Lecture on Chinese Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1603		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国の経済発展を数量データを使用して分析することです。		
授業の到達目標	中国の経済発展要因について数量的に把握し、他のアジア諸国との比較を行うことが目標になります。		
授業内容・授業計画	指定された教科書の内容を報告する形式をとります。全員、教科書の内容を予習して参加する必要があります。 第１回_ガイダンス 第２回_中国における産業構造変化の生産性上昇効果（1）TFPについて 第３回_中国における産業構造変化の生産性上昇効果（2）構造変化について 第４回_日本・台湾・韓国における産業構造変化の生産性上昇効果 第５回_中国における道路資本の生産力効果 第６回_日本における社会資本の生産力効果 第７回_中国工業における中小企業の役割（1）資本収益率仮説 第８回_中国工業における中小企業の役割（2）フロンティア生産関数 第９回_中国農村部における中小企業の役割（1）郷鎮企業 第10回_中国農村部における中小企業の役割（2）国有企業 第11回_中国農業の生産関数と過剰労働力の推定（1）ルイスの転換点 第12回_中国農業の生産関数と過剰労働力の推定（2）生産関数分析 第13回_日本・台湾・韓国における職種間賃金格差の縮小と技術進歩 第14回_中国における環境効率性の推計		
事前・事後学習の内容	授業に参加する前に教科書をきちんと読んでおく必要があります。		
評価方法	発表60%レポート40%で採点します。		
受講生へのコメント	中国の経済発展のメカニズムを数量データを使用して分析します。論文の書き方も指導したいと思います。		
教材	森脇祥太著『経済発展の計量分析』成文堂、2008年		

授業コード	EM20601010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	中国経済論研究演習		
英語科目授業名	Seminar on Chinese Economy		
科目ナンバー	EMGRJ1604		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	修士論文作成のために必要な知識を得るために中国経済について書かれた文献を読みます。		
授業の到達目標	中国経済の最新のトピックスを文献研究を通じて理解することが目標となります。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_中国経済に関する文献研究（1）1920年代 第３回_中国経済に関する文献研究（2）1930年代 第４回_中国経済に関する文献研究（3）1940年代 第５回_中国経済に関する文献研究（4）中華人民共和国建国期 第６回_中国経済に関する文献研究（5）大躍進政策 第７回_中国経済に関する文献研究（6）文化大革命 第８回_中国経済に関する文献研究（7）改革開放期農業 第９回_中国経済に関する文献研究（8）改革開放期工業 第10回_中国経済に関する文献研究（9）直接投資 第11回_中国経済に関する文献研究（10）国際貿易 第12回_中国経済に関する文献研究（11）環境問題 第13回_中国経済に関する文献研究（12）財政 第14回_中国経済に関する文献研究（13）金融		
事前・事後学習の内容	指定された文献を読んで演習に参加する必要があります。		
評価方法	提出されたレポートで採点します。		
受講生へのコメント	積極的にゼミに参加すること。		
教材	参考書や論文を適宜指示します。		

授業コード	EM20950010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代日本社会史研究		
英語科目授業名	Lecture onSocial History of Modern Japan		
科目ナンバー	EMGRJ1629		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	Justin Aukema		
科目の主題	本授業では、明治期から現在までの近代日本社会史を紹介する。その中で、労働者や女性、少数派民族などといった一般の人々や社会弱者が日本の近代史における劇的な変化をどのように経験したかという点に重きを置く。また、それを理解するために、先行研究テキストと共に積極的に日記や証言集、オーラル・ヒストリーなどといった一次資料を取り扱い、その分析に従事する。日本にいる一般の人々がどのように近代国家の発展を追ってきたか？その歴史的変化や経済に伴う社会関係をどのように体験してきたか？授業の中で、それらの質問を追求していく。そして、その過程において現代日本における問題の歴史的起源を明瞭にすることを大きな目的とする。講義は全て英語で行われるが、日本語資料を取り扱う場合もある。		
授業の到達目標	1）近代日本の発展と国家の形成に伴う風潮をミクロ及びマクロレベルで理解すること。 2）実践的に一次資料を収集し、分析することにより歴史的研究手法を身につけること。 3）テキスト解読や講義内容の聞き取りはもちろんのこと、英語で研究レポートや発表を完成することを通して高度な英語能力を取得すること。		
授業内容・授業計画	毎週の課題として、教員が指定するテキスト（一次資料・二次資料を含む）を読み、次の週の講義内容を理解するための必要知識を身につけていく。授業では、教員が英語で講義をする。また、場合によりテキスト講義内容を踏まえて、グループ・ディスカッションを通して学生に質問を答えてもらうことがある。コースの半分が経過したら、中間テストがあり、また、学期末に学生による研究レポートと発表がある。 第１回_　近現代日本史への紹介：幕末から明治期へ 第２回_　明治・大正における労働・社会関係（I） 第３回_　明治・大正における労働・社会関係（II） 第４回_　戦争下の庶民生活と体験 第５回_　占領期と戦後体制 第６回_　中間テスト 第７回_　戦後：労働と闘争（I） 第８回_　戦後：労働と闘争（II） 第９回_　日本における新自由主義 第10回_　近現代における貧困と不平等（I） 第11回_　近現代における貧困と不平等（II） 第12回_　学生発表（I） 第13回_　学生発表（II） 第14回_　フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、教員が指定するテキストを読み、それと講義内容を踏まえて、質問に答えること。さらに、学生による資料収集と分析をすることがある。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 1）課題（テキスト解読と課題質問）＝40%；2）レポートと発表＝30%；3）授業内ディスカッション＝20%；4）中間テスト＝10%		
受講生へのコメント	日本史や歴史的研究方法について学びながら、高度な英語能力も身につけていこう。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	EM20960010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代日本社会史研究演習		
英語科目授業名	Seminar onSocial History of Modern Japan		
科目ナンバー	EMGRJ1630		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	Justin Aukema		
科目の主題	本授業では、明治期から現在までの近代日本社会史について研究する。その中で、労働者や女性、少数派民族などといった一般の人々や社会弱者が日本の近代史における劇的な変化をどのように経験したかという点に重きを置く。また、それを理解するために、先行研究テキストと共に積極的に日記や証言集、オーラル・ヒストリーなどといった一次資料を取り扱い、その分析に従事する。日本にいる一般の人々がどのように近代国家の発展を追ってきたか？その歴史的変化や経済に伴う社会関係をどのように体験してきたか？授業の中で、それらの質問を追求していく。本授業は、講義で触れたことをより深く探るため、演習科目として学生が関連する一次資料を主体的に分析し、ディスカッションを行う。		
授業の到達目標	1）近代日本の発展と国家の形成に伴う風潮をミクロ及びマクロレベルで理解すること。 2）実践的に一次資料を収集し、分析することにより歴史的研究手法を身につけること。 3）テキスト解読や講義内容の聞き取りはもちろんのこと、英語で研究レポートや発表を用意することを通して高度な英語能力を取得すること。		
授業内容・授業計画	テキストや講義内容を踏まえて、学生が自主的に一次資料を分析し、また、それについてグループディスカッションを行う。その過程において、歴史的研究方法を身につけていく。 第１回_　近現代日本史への紹介：幕末から明治期へ 第２回_　明治・大正における労働・社会関係（I） 第３回_　明治・大正における労働・社会関係（II） 第４回_　戦争下の庶民生活と体験 第５回_　占領期と戦後体制 第６回_　中間テスト 第７回_　戦後：労働と闘争（I） 第８回_　戦後：労働と闘争（II） 第９回_　日本における新自由主義 第10回_　近現代における貧困と不平等（I） 第11回_　近現代における貧困と不平等（II） 第12回_　学生発表（I） 第13回_　学生発表（II） 第14回_　フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、教員が指定するテキストを読み、それと講義内容を踏まえて、質問に答えること。さらに、学生による資料収集と分析をすることがある。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 1）課題（テキスト解読と課題質問）＝40%；2）レポートと発表＝30%；3）授業内ディスカッション＝20%；4）中間テスト＝10%		
受講生へのコメント	日本史や歴史的研究方法について学びながら、高度な英語能力も身につけていこう。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	EM10011010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	前期研究指導1		
英語科目授業名	Research Guidance for the Master's Course 1		
科目ナンバー	EMRGJ1501		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修士論文作成に必要な研究手法を習得させる。		
授業の到達目標	当該分野の必読文献を読破し、研究に必要な諸概念を十分に理解する。 また、理論的研究、実証的研究、制度的研究など、分野に応じてそれぞれの研究手法の基礎を習得する。		
授業内容・授業計画	少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。 また、論文テーマの絞り込みを指導する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	各自の研究テーマに関する最先端の研究について正確な理解が、まず求められる。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	EM10021010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	前期研究指導2		
英語科目授業名	Research Guidance for the Master's Course 2		
科目ナンバー	EMRGJ3601		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修士論文作成について指導する。		
授業の到達目標	研究手法を習熟させ、充実した修士論文の作成をめざす。		
授業内容・授業計画	少人数のゼミ形式で、当該分野における研究の現状把握及び研究手法の基礎作りを行う。 また、論文テーマの絞り込みを指導する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、各回ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	担当教員が個別に指示する。		
教材	「前期研究指導1」を受けていることが前提である。 また、修士論文作成においては、助言教員の研究指導と助言を仰ぐ必要がある。		

授業コード	EM10050010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	ワークショップ		
英語科目授業名	Workshop		
科目ナンバー	EMRGJ2511		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創、黒田　雄太		
科目の主題	修了レポートや修士論文を書くためには，各分野の専門的な知識に加えて，研究を遂行するための姿勢や技術が求められる．本演習では参加者がワークショップ形式で各自の研究テーマを持ちより，実践的にこれらの姿勢や技術を学んでいく．		
授業の到達目標	（1）研究とは何か （2）優れた研究とはどういったものか を理解し， （3）先行研究のサーベイの仕方 （4）研究計画の立て方 を学び，実行できるようになること．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． 初めに担当教員から研究の進め方や先行研究のサーベイの仕方等についてレクチャーを行う．その後，参加者は自身の研究計画案を報告し（第1回プレゼンテーション），研究の方向性や関連研究等について参加者全員で討論する．参加者はそれを受けて先行研究のサーベイを行い，その結果と自身の研究の位置付けについて報告し（第2回プレゼンテーション），参加者全員で討論する． 第１回_教員によるレクチャー1 第２回_教員によるレクチャー2 第３回_研究計画案の報告と討論1 第４回_研究計画案の報告と討論2 第５回_研究計画案の報告と討論3 第６回_研究計画案の報告と討論4 第７回_研究計画案の報告と討論5 第８回_研究計画案の報告と討論6 第９回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論1 第10回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論2 第11回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論3 第12回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論4 第13回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論5 第14回_先行研究のサーベイと研究の位置付け及び討論6		
事前・事後学習の内容	プレゼンテーションにあたっては期日までに必要なレジュメ，スライドファイルなどの提出を求める．また，プレゼンテーションで受けたアドバイスやコメントについては各自検討し，研究計画の改善に役立てる．		
評価方法	プレゼンテーション，授業内でのディスカッション等によって評価を行う．		
受講生へのコメント	特になし．		
教材	テキストはなし，参考書は必要に応じて紹介する．		

授業コード	EM10060010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	修了論文指導		
英語科目授業名	Supervision for Final Paper		
科目ナンバー	EMRGJ3611		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙1参照		
科目の主題	修了論文作成に必要な研究上の指導を行う。		
授業の到達目標	研究手法の一層の習熟及び修了論文作成に必要な知見を習得する。		
授業内容・授業計画	ゼミで論文草稿を報告し、内容について議論する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_最終報告		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書を読み、理解が不十分なところを補いゼミでの報告に備える。 復習として、ゼミでの報告と討論を通じて理解が不十分と指摘された点、さらに検討すべき点について、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成したか、平常点、ゼミにおける論文草稿報告等により総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「ワークショップ」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

前期研究指導 1・2　及び　修了論文指導　担当教員一覧

理論経済分野

○北原　　稔：ミクロ経済学（応用ミクロ経済学）
○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）
○岡澤　亮介：マクロ経済学（マクロ経済学の制度と経済成長、公共選択論）
○齋藤　幸平：現代資本主義論（『資本論』研究、環境政治経済学）
○内藤　克幸：マクロ経済動学（経済成長、所得格差、公共選択）
○中川　　満：統　計　理　論（単位根分析に対する構造変化の影響に関する研究）

経済史・経済思想分野

○中村　健吾：社会思想史（欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権、社会的排除と社会的包摂）
○若森みどり：経済学説史（カール・ポランニー研究、現代社会経済思想、経済思想史）
○J.アウケマ：近代日本社会史（近現代日本史、戦争の歴史と記憶、歴史遺産）
○塩谷　昌史：西洋経済史（ロシア地域研究、近代統計制度の比較経済史）
○杉田　菜穂：社会政策論（日本を中心とする人口問題と社会政策の歴史研究）
○彭　　浩：日本経済史（海外貿易と国内の産業構造の相互関連、貿易制度・商人組織の史的研究）

応用経済分野

○浦西　秀司：産業経済論（公益事業の規制政策に関する計量分析）
○小川　　亮：地方財政論（地方財政および都市・地域経済に関する実証研究）
○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○髙塚　　創：空間経済学（空間経済の諸問題に関する研究）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○松本　　淳：財政政策論（公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について）
○五十川大也：産業政策論（実証産業組織論、イノベーションに関する実証研究）
○黒田　雄太：福祉経済論（教育政策に関する実証研究）
○柴田　　淳：流通経済論（生産から消費に至るまでの分業と価格形成メカニズムの分析）

グローバル経済分野

○有賀　敏之：世界経済論（多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究）
○金子　勝規：東南アジア経済論（タイ地域研究、ASEAN 経済論、社会開発および社会福祉に関する実証分析）
○久保　彰宏：国際経済論（国際マクロ経済分析）
○朴　　一：東アジア経済論（朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動及び移民労働者に関する実証研究）
○森脇　祥太：開発経済学・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の比較研究）

後期博士課程

分野科目

研究指導

授業コード	ED20071010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EDTHJ1719		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	経済政策が政治過程を通じて決定される状況での経済成長や所得格差に関する研究論文を輪読する。		
授業の到達目標	上述の研究分野に関する近年の動向を理解した上で、今後の研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	本授業は対面により実施し、下記の内容を取り扱う。 第１回_Introduction 第２回_Endogenous Growth Model 1 第３回_Endogenous Growth Model 2 第４回_Static Voting Game 第５回_Dynamic Voting Game 第６回_Redistribution 1: Alesina and Rodrik (1994) 第７回_Redistribution 2: Persson and Tabellini (1994) 第８回_Redistribution 3: Hassler, Mora, Storesletten and Zilibotti (2003) 第９回_Education 1: Glomm and Ravikumar (1992) 第10回_Education 2: Saint-Paul and Verdier (1993) 第11回_Education 3: Galor and Moav (2006) 第12回_Public Debt 1: Alesina and Tabellini (1990) 第13回_Public Debt 2: Battaglini and Coate (2008) 第14回_Public Debt 3: Song, Storesletten and Zilibotti (2012)		
事前・事後学習の内容	受講生は事前に定められた論文を熟読の上で授業に臨むこと。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学（一般均衡理論、ゲーム理論（特に繰り返しゲーム）等）、マクロ経済学（Ramsey-Cass-Koopmansモデル、世代重複モデル等）、数学（微分積分、確率統計、静学的最適化理論、動学的最適化理論（特にダイナミック・プログラミング）等）の知識を前提とする。		
教材	第1回授業の際に提示する。		

授業コード	ED20081010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	マクロ経済動学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Dynamic Macroeconomics		
科目ナンバー	EDTHJ1720		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	経済政策が政治過程を通じて決定される状況での経済成長や所得格差に関する研究論文を輪読する。		
授業の到達目標	上述の研究分野に関する近年の動向を理解した上で、今後の研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	本授業は対面により実施し、下記の内容を取り扱う。 第１回_Introduction 第２回_Endogenous Growth Model 1 第３回_Endogenous Growth Model 2 第４回_Static Voting Game 第５回_Dynamic Voting Game 第６回_Redistribution 1: Alesina and Rodrik (1994) 第７回_Redistribution 2: Persson and Tabellini (1994) 第８回_Redistribution 3: Hassler, Mora, Storesletten and Zilibotti (2003) 第９回_Education 1: Glomm and Ravikumar (1992) 第10回_Education 2: Saint-Paul and Verdier (1993) 第11回_Education 3: Galor and Moav (2006) 第12回_Public Debt 1: Alesina and Tabellini (1990) 第13回_Public Debt 2: Battaglini and Coate (2008) 第14回_Public Debt 3: Song, Storesletten and Zilibotti (2012)		
事前・事後学習の内容	受講生は事前に定められた論文を熟読の上で授業に臨むこと。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学（一般均衡理論、ゲーム理論（特に繰り返しゲーム）等）、マクロ経済学（Ramsey-Cass-Koopmansモデル、世代重複モデル等）、数学（微分積分、確率統計、静学的最適化理論、動学的最適化理論（特にダイナミック・プログラミング）等）の知識を前提とする。		
教材	第1回授業の際に提示する。		

授業コード	ED20191010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関わる最新の研究に触れる。また、ミクロ経済学的視点（特に、インセンティブ）・計量経済学的視点（特に、内生性の問題）の研究における活かし方を学ぶ。		
授業の到達目標	最新の研究でどの様なことが、どの様にして、明らかになっているかを知る。また、それらにおけるミクロ経済学的視点・計量経済学的視点の活かされ方を知る。以上を踏まえて、研究計画を立てる。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている（NBER HPより）で取り上げられた論文を講義形式で紹介する。参考までに、前回同様の形式を取った際に扱った記事を以下に掲載する。 「Marriageability Concerns and Professional Ambitions」（2017年5月号） 「Managers' Bias and Workers' Job Performance」（2017年3月号） 「Putting Price Tags on Alternative Work Arrangements」（2016年12月号） 「Tuskegee, Trust in Doctors, and the Health of Black Men」（2016年8月号） 「Real Effects of Liquidity during the Financial Crisis」（2016年7月号） 「The Gambler's Fallacy」（2016年6月号） 「Tracking the Gifted Boosts High-Achieving Minorities」（2016年5月号） 「Testing versus Manager Discretion in Hiring」（2016年4月号） 第1回：ガイダンス 第2回～第14回：10本程度の記事について、1記事1～2回のペースで進める。		
事前・事後学習の内容	講義前に、NBER Digestの記事（HP: http://www.nber.org/digest/）と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。講義後は、関連する統計がどれ程取れるものか調べてみる。		
評価方法	主に、宿題により評価する。		
受講生へのコメント	研究計画にどう役立てられるかを考えながら取り組むとよい。		
教材	NBER Digestの記事、及び、その記事で取り上げられた元論文。		

授業コード	ED20201010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ミクロ経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Microeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ミクロ経済学に関する最新の研究に触れる。また、それを参考に、研究計画を立ててみる。		
授業の到達目標	各研究で何が行われているかを把握する。また、それを参考にどの様な研究計画が立てられるものなのかを知る。特に、様々なトピックが分析可能であること、また、どの様に分析できるのか、分析に際してどの様な注意が必要となって来るのかについて知る。		
授業内容・授業計画	NBER Digest（ニュース性の高い最新研究の一般向け要約が毎月四本以上掲載されている。）の記事を輪読する。扱う記事については、参加者の希望も聞きながら決めて行く。参考までに、以下が、前回同様の形式を取った際に扱った記事の一部である。 「India's Demonetization Reduced Employment and Economic Activity」（2019年2月記事） 「The Falling Environmental Cost of U.S. Electricity Generation」（2019年2月記事） 「Benefits of Rooftop Solar Vary Widely across Major Regions of the Country」（2019年2月記事） 「Employees See Wage Gains when Small Firms Win Patents」（2019年3月記事） 「Women from Elite Colleges Earn More Because They Work More」（2019年4月記事） 「How Top Earners Make Money: Often, from Running a Business」（2019年5月記事） 「Why Some Regions Rebounded Faster after the Great Recession」（2019年5月記事） 「How Strongly Do Expectations about Returns Affect Portfolio Choice?」（2019年6月記事） 「Analyzing Efforts to Rein in Misinformation on Social Media」（2019年6月記事） 「Cancellation of Student Loans Led to a General Deleveraging」（2019年7月記事） 「Bright Lights, Fewer Serious Crimes in New York City Projects」（2019年7月記事） 第1回：ガイダンス 第2回～第14回：10本程度の記事について、1記事1～2回のペースで進める。		
事前・事後学習の内容	報告者は、報告回で出た疑問点について、次回までに調べておく。また、関連する統計について調べる。報告者以外も、記事と論文のアブストラクトには目を通し、疑問点を整理しておく。また、次回までに、報告記事を参考にした模擬研究計画を検討しておく。		
評価方法	自分の担当回における報告及び他人の担当回におけるコメント、また、最終的に提出する模擬研究計画により評価する。		
受講生へのコメント	大学院基礎レベルのミクロ経済学、計量経済学を習得済みであると、より有意義であろう。		
教材	大学院基礎レベルのミクロ経済学（例：Mas-Colell et al. (1995) Microeconomic Theory, Oxford University Press）、計量経済学（例：Wooldridge (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Thomson Southern）の教科書。（購入の必要は無いが、あると便利かも知れない。）		

授業コード	ED21031010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EDTHJ1713		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	本授業は画面共有機能を用いて指示を出すことが望ましいため遠隔授業で実施する。 創発や進化と言った複雑系の諸概念の理解と、エージェント・ベース・シミュレーション(ABS)という研究技法の習得を目的とした研究と演習を行う。複雑系研究及びABSの技法は、その多くが物理学や数学の研究分野で生み出されたものである一方で、地震や破壊、浸透などの地学、物理学分野や群れ行動、捕食被食関係などの生態学分野、人間関係などのネットワーク科学分野など多くの分野で応用され、学際的研究の代表例の一つとなっている。経済現象においても、株価変動や都市の形成、交通渋滞などで用いられている。この授業では、経済学分野における最近の研究についてサーベイする。更に、その研究を発展させるための論点について討議する。		
授業の到達目標	自ら発見した課題をモデル化し、エージェント・ベース・シミュレーションによって研究できる能力を身につけることを目標にする。		
授業内容・授業計画	複雑系研究の論文論文集を講読する。各人が、テキストのレジュメを作成し、授業では、そのレジュメに基づいた発表と、その内容についての討論を行う。後期課程の学生は、討議を進行するためのファシリテータとしての役割も担う。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction 第15回_まとめと振り返り		
事前・事後学習の内容	文献のレジュメを作成し、討議するための論点を見つける。		
評価方法	授業での報告内容や討議への参加で評価する。		
受講生へのコメント	エージェント・ベース・シミュレーションで研究を行いたい学生の受講を望む。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	ED21041010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	複雑系経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economics of Complex Systems		
科目ナンバー	EDTHJ1714		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	本授業は画面共有機能を用いて指示を出すことが望ましいため遠隔授業で実施する。 エージェント・ベース・シミュレーションによる研究を遂行するためには、モデルをコンピュータ上で実行するためのプログラミング能力のみならず、パラメータ・サーベイを行うためのバッチ処理、膨大に得られるデータを分析する、データマイニング技術など様々な技能が必要である。この演習では、既存研究を再現することで、これら能力を涵養する。		
授業の到達目標	エージェント・ベース・シミュレーションを用いた研究を完成させるために必要な能力を身に着けることを目標にする。		
授業内容・授業計画	ペア科目である「複雑系経済学特殊研究」で用いた論文で扱っているシミュレーションを再現するとともに、新しい結果について報告する。また、その独自の結果についての討議をファシリテートする。 第１回_ガイダンス 第２回_Multi-Agent Stochastic Simulation for the Electricity Spot Market Price 第３回_An Agent-Based Information Management Approach to Smoothen the Pork Cycle in China 第４回_Do Capital Requirements Affect Long-Run Output Trends? 第５回_Modeling the Textbook Fractional Reserve Banking System. 第６回_Learning to Trade in an Unbalanced Market 第７回_Effectivity of Multi Criteria Decision-Making in Organisations: Results of an Agent-Based Simulation 第８回_The Problem of Emergency Department Overcrowding: Agent-Based Simulation and Test by Questionnaire 第９回_An Agent-based Model of Food Safety Practices Adoption 第10回_Why Should the Economy be Competitive? 第11回_Economic Growth by Waste Generation: the Dynamics of a Vicious Circle 第12回_Using Agentization for Exploring Firm and Labor Dynamics 第13回_Firm Entry Diversity, Resource Space Heterogeneity and Market Structure 第14回_Time-Dependent Trading Strategies in a Continuous Double Auction 第15回_まとめとふりかえり		
事前・事後学習の内容	「複雑系経済学特殊研究」で取り上げた論文について、シミュレーションを実施し、論文の中に出てくる+M87:M88図表を再現する。更に、論文で触れられていないシミュレーション結果を出し、その結果に関する討議内容を準備する。		
評価方法	授業での報告内容やディスカッションへの参加で評価する。		
受講生へのコメント	javaによるプログラムが必要である。		
教材	Sjoukje Osinga, G. J. Hofstede, T. Verwaart (Eds.), "Emergent Results of Artificial Economics", Springer, 2011		

授業コード	ED20171010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	社会思想史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EDHIJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	ドイツの哲学者であるG.W.F.ヘーゲルの『法の哲学要綱（Grundlinien der Philosophie des Rechts）』を読解する。テキストは、できるかぎり日本語訳を使用する。		
授業の到達目標	『法の哲学要綱』の内容の体系的な理解と歴史的な意義の理解とをめざす。		
授業内容・授業計画	毎回の講義では、毎回の演習において履修生に報告してもらう予定の内容について、中村健吾が予備的な講義をする。		
事前・事後学習の内容	たとえ日本語訳をテキストとして使用するとしても、その内容の理解は困難であるから、とくにテキスト報告の準備は相当な時間を要するであろう。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	履修生は、ドイツ語の読解能力を有していることが望ましい。		
教材	【テキスト】 G.W.F.ヘーゲル『法の哲学Ⅰ』、『法の哲学Ⅱ』（中公クラシックス）。ヘーゲルの『法の哲学要綱』には数多くの日本語訳が存在するが、授業では上記のテキストだけが通用する。 履修生の様態によっては、次のドイツ語版をテキストとして使用する： G.W.F. Hegel, Werke in 20 Baenden; Bnad 7: Grundlinien der Philosophie des Rechts, Suhrkamp Verlag.		

授業コード	ED20181010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	社会思想史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on History of Social Thought		
科目ナンバー	EDHIJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	ドイツの哲学者であるG.W.F.ヘーゲルの『法の哲学要綱（Grundlinien der Philosophie des Rechts）』を読解する。テキストは、できるかぎり日本語訳を使用する。		
授業の到達目標	『法の哲学要綱』の内容の体系的な理解と歴史的な意義の理解とをめざす。		
評価方法	学期末の研究報告書により成績を評価する。		
受講生へのコメント	履修生は、ドイツ語の読解能力を有していることが望ましい。		
教材	【テキスト】 G.W.F.ヘーゲル『法の哲学Ⅰ』、『法の哲学Ⅱ』（中公クラシックス）。ヘーゲルの『法の哲学要綱』には数多くの日本語訳が存在するが、授業では上記のテキストだけが通用する。 履修生の様態によっては、次のドイツ語版をテキストとして使用する： G.W.F. Hegel, Werke in 20 Baenden; Bnad 7: Grundlinien der Philosophie des Rechts, Suhrkamp Verlag.		

授業コード	ED20151010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済学説史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on History of Political Economy		
科目ナンバー	EDHIJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	この講義では、資本主義や市場経済の動態とそれが抱える問題を長期的な歴史的展望のもとに把握した、制度の経済学思想家たちを取り上げる。今年度は、「社会的共通資本」という考え方を提唱した、宇沢弘文（1928～2014）の生涯と思想形成を追跡しながら、同時に、社会的共通資本の概念についての理解を深めます。		
授業の到達目標	宇沢弘文の経済思想について理解し、明快かつ論理的に報告し、質疑によって理解を深める。		
授業内容・授業計画	２つのテキストを輪読し、担当箇所を精読したうえでレジュメを作成・報告し、質疑を行う。大まかな予定は以下の通り。 第１回_イントロダクション 第２回_宇沢弘文の生涯① 第３回_宇沢弘文の生涯② 第４回_宇沢弘文の思想形成①　アローとの出会い 第５回_宇沢弘文の思想形成②　フリードマンとの闘い 第６回_宇沢弘文がみたアメリカと日本の「戦後」 第７回_自動車の社会的費用① 第８回_自動車の社会的費用② 第９回_社会的共通資本① 第10回_社会的共通資本② 第11回_社会的共通資本③ 第12回_宇沢弘文のリベラリズム① 第13回_宇沢弘文のリベラリズム② 第１４回_総括		
事前・事後学習の内容	①各回で取り上げる箇所に目を通すこと。 ②プレゼン資料をWebclassにアップするので、それをダウンロードし内容を復習すること。 ③理解が不十分と認識したり指摘されたりした点について、研究書や学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	学期末に、講義内容を踏まえて自身の研究テーマと関連付けたレポート提出を求める。詳細は講義中に指示し、Webclassでも掲示する。		
受講生へのコメント	①テキストは2冊指定し、補完的に使用します。輪番の割り振りなどに影響するので、かならず2冊とも手元に置いて初回の授業に出席してください。 ②報告と質疑を重視するこの授業は、今年度については、オンラインおよび対面を組み合わせて実施することになります。Webclassおよびメールを連絡手段や教材の共有手段として使用します。 ③オンラインで対応できるよう、協力をお願いします。 ④わからないことがあれば、質問してください。 ⑤積極的な参加を期待します。		
教材	テキストは2冊指定する。この2冊を購入してから、最初の授業に出席すること。 ①宇沢弘文『社会的共通資本』 岩波新書、 2000年。 ②佐々木実　『資本主義と闘った男』講談社、2019年。		

授業コード	ED20161010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済学説史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on History of Political Economy		
科目ナンバー			
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する先行研究を取り上げた報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	経済学説史研究の方法を習得し、市場経済論、資本主義論、20世紀、および現代の社会・経済・政治思想（史）に関する知見を吸収し、自らの研究テーマや分析手法に関する手がかりを得ることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに質疑・研究指導を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_受講者の報告① 第３回_受講者の報告② 第４回_受講者の報告③ 第５回_テーマの設定と文献の探し方① 第６回_テーマの設定と文献の探し方② 第７回_テーマの設定と文献の探し方③ 第８回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ① 第９回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ② 第10回_主要な先行研究の紹介、および自身のテーマの位置づけ③ 第11回_研究レポートの作成と中間報告① 第12回_研究レポートの作成と中間報告② 第13回_研究レポートの作成と中間報告③ 第14回_総括		
事前・事後学習の内容	①各自の研究テーマとそれを取り上げることの意義について他者に明確に伝えるよう日々努力すること。 ②各自の研究テーマの先行研究についてよく調べてリストを作ること。 ③とりわけ重要な資料について報告するための資料を作成すること。Webclassで提出を求めることがあります。 ③演習のなかで理解が不十分であると認識したり指摘されたりした点について、改善すること。 ④各自の研究テーマに関するレポートを中間報告し、コメントされた点を反映したレポートを期末に提出すること。提出方法は、Webclassで掲示します。		
評価方法	出席態度、およびレポート等から総合的に判断する。		
受講生へのコメント	①報告や質疑が中心となりますが、今年度はオンラインと対面式のどちらでも実施できる態勢にします。各自、オンラインで受講できるよう、対応をお願いします。 ②Webclassとメールを使って、連絡および情報を共有します。 ③各自の研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけてください。 ④わからないことがあれば質問してください。 ⑤積極的な授業への参加を期待します。		
教材	授業のなかで参考文献を提示することがあります。		

授業コード	ED20711010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EDHIJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	主題は日本経済史の諸論点である。本学期は都市経済史の諸課題に絞りたい。都市経済史に関する文献および史料を輪読し、重要な論点をめぐって議論を行う。		
授業の到達目標	経済史研究の方法論を深める一方、研究の動向を総合的に把握できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 都市経済史の諸課題を取り上げて最先端の研究状況を説明する。事例紹介などを通じて研究の方法論を紹介する。 第１回_イントロダクション 第２回_都市史研究の現状 第３回_日本の商業都市：大阪 第４回_中国の商業都市：蘇州 第５回_日本の貿易港市：長崎 第６回_中国の貿易港市：広州 第７回_史料の解析：都市空間 第８回_史料の解析：都市運営 第９回_史料の解析：インフラ整備 第10回_史料の解析：都市と流通 第11回_事例紹介：満州国の「新京」 第12回_事例紹介：植民地時代の台北 第13回_総合議論-新しい方法論- 第14回_総合議論-学位論文の作成に向けて- ＊授業の内容が必要と受講生の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	輪読する論文を予め読む。毎回のゼミ終了後、議論中に提示された諸論点をまとめて理解を深める。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキスト、特になし。 学術雑誌『都市史研究』各号、吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市』 4冊（東京大学出版会、2010年）、『日本都市史入門 』3冊（東京大学出版会、1989～1990年）などから論文を選んで輪読のテキストとする。		

授業コード	ED20721010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economic History of Japan		
科目ナンバー	EDHIJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	経済史研究および修士・博士学位論文作成の演習。経済史関係の史料を読み、史料研究ノートという形の報告、および学位論文を作成するための関連研究の報告を行う。		
授業の到達目標	高度な史料解読力を身につけ、学位論文の研究を着実に進めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 参加者の経済史に関する研究の指導を最優先に取り組みたい。第1回では、それぞれの研究課題と進展状況を確かめる。その後の演習では、①研究の計画・構想、②先行研究のまとめ、③史料の紹介・分析、④総合発表、4段階に分けて報告してもらう。 第１回_オリエンテーション 第２回_研究構想の発表　グループ１ 第３回_研究構想の発表　グループ２ 第４回_先行研究のまとめ　グループ１ 第５回_先行研究のまとめ　グループ２ 第６回_史料調査 第７回_史料調査の報告 第８回_史料研究ノート　グループ１ 第９回_史料研究ノート　グループ２ 第10回_第1次研究発表　グループ１ 第11回_第1次研究発表　グループ２ 第12回_第2次研究発表　グループ１ 第13回_第2次研究発表　グループ２ 第14回_全体議論 ＊演習の内容が必要と参加者の要望に応じて変更される可能性がある。		
事前・事後学習の内容	報告者は前の週の演習で報告のテーマおよび参考書を予告する。参加者の全員はその参考書を読むことで予習を行う。終了後、演習中の議論の諸論点をまとめることで復習を行う。		
評価方法	報告（50%）と討論（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		
教材	特になし		

授業コード	ED20571010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Japanese Economy		
科目ナンバー	EDAPJ1733		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。		
授業の到達目標	わが国の家計行動の解明や家計の視点に重点をおいた政策評価、今後望まれる政策の探求への取り組みを深める。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト、参考文献は授業中に指示する。		

授業コード	ED20581010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Japanese Economy		
科目ナンバー	EDAPJ1734		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	現在、日本経済が抱える問題の多くは家計の選択および行動の多様化を抜きには議論できない。例えば、結婚・出産といった家族形成や労働供給に対する考え方、消費ひいては貯蓄の決定等の多様性は、世代間のみならず世代内においても拡がっており、少子・高齢社会を迎えての社会保障システムのあり方や経済政策の実効性等に与える影響は大きい。そこで、家計行動の実態を明らかにするとともに、家計の視点から政策の評価について、理論・実証の両面から検討する。		
授業の到達目標	家計行動の側面から捉えた日本経済における新たな研究課題を見出し、それを理論的・実証的に分析する力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	講義の前半は、論文、著書を輪読し、後半では、データの収集と計量経済学の手法によるパソコンを利用した実証分析の実習を行う。 第１回_講義の進め方 第２回_労働問題-若年者・高齢者 第３回_労働問題-女性 第４回_少子化問題-要因 第５回_少子化問題-政策 第６回_貯蓄行動・資産選択 第７回_所得格差 第８回_社会保障-年金 第９回_社会保障-医療・介護 第10回_実証分析-データ 第11回_実証分析-基本的操作 第12回_実証分析-仮説設定 第13回_実証分析-仮説検証 第14回_実証分析-レポート作成に向けて		
事前・事後学習の内容	授業で取り上げる文献を予め読んでおくこと。報告が当たっているときには、レジュメを作成してください。授業後は関連文献を読み、理解を深めること。		
評価方法	授業での報告、ディスカッションへの参加、レポートによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ディスカッションへの積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト、参考文献は授業中に指示する。		

授業コード	ED20371010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	金融経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Monetary Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1717		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル作成の技術を身に付ける。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。出席者は事前に指示された論文を読んでおくこと。出席者には報告を行ってもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(1)(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(1)(サーベイ) 第４回_金融契約理論(1)(基本モデル) 第５回_金融契約理論(1)(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(1)(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(1)(結論) 第８回_金融契約理論(2)(イントロダクション) 第９回_金融契約理論(2)(サーベイ) 第10回_金融契約理論(2)(基本モデル) 第11回_金融契約理論(2)(拡張モデル) 第12回_金融契約理論(2)(インプリケーション) 第13回_金融契約理論(2)(結論) 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業の復習をしてくること。		
評価方法	平常点(受講態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	十分な予習・復習時間を確保してください。 履修希望者は、第１回目の授業に必ず参加してください。途中参加の場合、他の履修者に迷惑がかかります。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	ED20381010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	金融経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Monetary Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1718		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融契約のミクロ理論モデル分析を学び、モデル分析の技術を身に付ける。		
授業の到達目標	金融契約に関する論文を理解し、モデル作成の技術を身に付ける。さらに、博士論文執筆のための分析能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 金融契約に関する論文などを読む予定です。読む論文(英語の国際学術論文)はこちらで指示します。指示した論文を出席者に報告してもらいます。そのため、ミクロ経済学、経済数学(微分、偏微分、最大化問題など)、ゲーム理論、契約理論、金融契約に関する知識があることが必須です。ゲーム理論と契約理論の知識は特に重要です。ゲーム理論および契約理論に関しては、中級レベルの本を最低一冊読んで理解していること。契約理論に関しては、サラニエ著『契約の経済学』(勁草書房)に書かれている内容をほぼ理解しているレベルであること。銀行経営、銀行実務、証券理論(株式市場、債券市場を含む)、証券実務、金融の実証分析、マクロの金融、国際金融などは専門外ですので、取り扱いません。 第１回_ガイダンス 第２回_金融契約理論(3)(イントロダクション) 第３回_金融契約理論(3)(サーベイ) 第４回_金融契約理論(3)(基本モデル) 第５回_金融契約理論(3)(拡張モデル) 第６回_金融契約理論(3)(インプリケーション) 第７回_金融契約理論(3)(結論) 第８回_金融契約理論(4)(イントロダクション) 第９回_金融契約理論(4)(サーベイ) 第10回_金融契約理論(4)(基本モデル) 第11回_金融契約理論(4)(拡張モデル) 第12回_金融契約理論(4)(インプリケーション) 第13回_金融契約理論(4)(結論) 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前に指示された論文を次回授業時までに読んでおくこと。 前回の授業の復習をしてくること。		
評価方法	平常点(受講態度、授業時の報告など)、研究報告書などから総合的に評価する。		
受講生へのコメント	毎回、報告をしてもらうことになりますので、十分な予習・復習時間を確保してください。 第1回目の授業はオリエンテーションです。金融経済研究特論の授業時間に行います。		
教材	テキストは、適宜指示します。参考文献は、Review of Economic Studies, Journal of Comparative Economics, Journal of Banking & Finance等。		

授業コード	ED20811010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	地方財政論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Local Public Finance		
科目ナンバー	EDAPJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する諸問題の考察に用いられる、理論モデルや実証方法について、受講者の発表やその後の議論のなかで理解していく。		
授業の到達目標	地方財政論の文献について、特に、理論モデルの展開、実証結果が理解でき、かつ、自分自身の研究に応用できる高度な力をつけること。		
授業内容・授業計画	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Pressの中の地方財政に強く関連する3つの章（Ch.7 Club Goods and Local Public Goods、 Ch.19 Fiscal Federalism、Ch.20 Fiscal Competition）を輪読する予定である。 （受講者の希望によって文献は適宜な対応をとる。） 第１回_イントロダクション 第２回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Introduction / Definitions- 第３回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Single-Product Clubs- 第４回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -The Tiebout Hypothsis- 第５回_Ch.7 Club Goods and Local Public Goods -Empirical Tests- 第６回_Ch.19 Fiscal Federalism -Introduction / Arguments for Multi-level Government- 第７回_Ch.19 Fiscal Federalism -Optimal Structure: Efficiency vs Stability- 第８回_Ch.19 Fiscal Federalism -Acountability / Risk-Sharing / Hard and Soft Budgets- 第９回_Ch.19 Fiscal Federalism -Evidence on decentralization- 第10回_Ch.20 Fiscal Competition -Introduction- 第11回_Ch.20 Fiscal Competition -Tax Competition- 第12回_Ch.20 Fiscal Competition -Income Distribution- 第13回_Ch.20 Fiscal Competition -Intergovernmental Transfers- 第14回_Ch.20 Fiscal Competition -Evidence-		
事前・事後学習の内容	当然ながら、発表担当者だけでなく、それ以外の受講生も事前に予習すること。 また、理解できなかった部分は、事後的に講師に必ず相談、確認すること。		
評価方法	報告内容、議論への参加態度、レポートによって評価する。		
受講生へのコメント	修士の院生をリードするような発表、質疑応答を期待する。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition),MIT Press		

授業コード	ED20821010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	地方財政論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Local Public Finance		
科目ナンバー	EDAPJ1728		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方財政に関する問題意識から、関連する先行研究を網羅的にサーベイする。 さらに、リサーチクエスチョンに対して経済理論モデルに基づいた仮説を構築し、数式モデルの展開またはデータを用いた実証によってその仮説の検証を試みる。		
授業の到達目標	地方財政論に関する問題意識・課題の鮮明化、先行研究のサーベイが高度におこなえること、また、理論モデルの展開や実証分析によって、オリジナルかつ高度な知見を習得し、解説できることを目標とする。		
授業内容・授業計画	調査研究の手順を一通り解説する。その後、各自の関心にもとづき、調査研究を進め、中間および 最終発表をしてもらい、それをレポートにまとめ提出してもらう。 第１回　演習の進め方 第２回　サーベイ方法 第３回　問題意識、課題の鮮明化と仮説構築 第４回　仮説の検証戦略 第５回　実践　問題意識の鮮明化 第６回　実践　課題の鮮明化 第７回　実践　仮説構築 第８回　実践　仮説の検証戦略 第９回　中間発表 第10回　実践　調査分析（前）　−データ収集・データマイニング− 第11回　実践　調査分析（中）　−予備的分析− 第12回　実践　調査分析（後）　−回帰分析− 第13回　最終発表１　　−グループ1の発表− 第14回　最終発表２　　−グループ2の発表−		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 理論モデルは数式による表記を試みること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	博士論文に使える調査研究になればよいと思います。		
教材	Hindriks, J. and Myles, G. D. (2013) Intermediate Public Economics (second edition) Wooldridge, J.(2008) Introductory Econometrics:A Modern Approach (fourth editon)		

授業コード	ED20351010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	流通経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Distribution Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1715		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済に関係する応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の解説を行う。取り上げる分野は、垂直構造、差別化戦略、外部性、エージェンシー理論、メカニズムデザイン、さらにはマーケティング関連を予定している。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　大学院レベルのミクロ経済学の基礎知識を理解すること ２　１で理解した知識を活用して、流通経済における現象を経済学的ロジックで理解できること		
授業内容・授業計画	第１回_講義の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んでくること。事後には、授業ノートをもとに理解を深めること。		
評価方法	到達目標１～2の達成度で評価を行う 成績を評価する手段としてはレポートを用いる。 講義内で紹介する関連論文から各自１本を取り上げて、レポートを作成する。 単位を取得するためには、正確に内容を理解していることが求められる。		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みあるいは履修中であることを前提とする。		
教材	毎回、テキストの論文を配布する。		

授業コード	ED20361010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	流通経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Distribution Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1716		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済に関連した応用ミクロ経済学、産業組織論の論文の講読を行う。取り上げる分野は、垂直構造、差別化戦略、外部性、エージェンシー理論、メカニズムデザイン、さらにはマーケティング関連を予定している。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　大学院レベルのミクロ経済学の基礎的内容を理解すること ２　１で理解した知識を活用して、流通経済における現象を経済学的ロジックで理解できること		
授業内容・授業計画	第１回_演習の進め方 第２回_垂直構造 第３回_水平的差別化 第４回_垂直的差別化 第５回_外部性 第６回_エージェンシー 第７回_複数のエージェント 第８回_コモンエージェンシー 第９回_デリゲーション 第10回_アドバースセレクション 第11回_メカニズムデザイン 第12回_小売市場における計量分析 第13回_流通チャネルにおける計量分析 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を読んでくること。事後には、授業ノートをもとに理解を深めること。		
評価方法	到達目標１～2の達成度で評価を行う 単位を取得するためには、各回取り上げる論文の内容を正確に理解していることが求められる。 評価は各回のディスカッションへの参加状況への評価を総計して行う。		
受講生へのコメント	大学院基礎科目のうち、ミクロ経済学と計量経済学を履修済みか履修中であることを、受講の前提条件とする		
教材	テキストは特になし。参考書は適宜指示する。		

授業コード	ED20910010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	福祉経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Welfare Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1737		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	福祉や公共政策に関する最新の研究について学び、マイクロデータと応用計量経済学を用いた実証分析の手法について理解する。		
授業の到達目標	当該分野における近年の研究の動向および代表的な手法を理解する。その上で自らの研究の方向性を決定し、研究計画を立てる。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業（リアルタイム・発展）に変更される場合がある。 前半は計量経済学を用いた実証分析、特に因果推論に関する発展的なテキストおよび関連研究を輪読する。 後半は受講生の研究テーマに関連の深い最新の研究を取り上げて議論を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読（Introduction to Causal Inference） 第３回_テキスト輪読（Randomized Control Trial） 第４回_テキスト輪読（Natural Experiment） 第５回_テキスト輪読（Regression Discontinuity Design） 第６回_テキスト輪読（Instrumental Variable） 第７回_テキスト輪読（Difference-in-Differences） 第８回_テキスト輪読（Other Issues） 第９回_関連研究報告1 第10回_関連研究報告2 第11回_関連研究報告3 第12回_関連研究報告4 第13回_関連研究報告5 第14回_総括		
事前・事後学習の内容	参加者は事前に指定された資料を読み、不明点を明確にしておくこと。報告担当者は準備に十分な時間をとり、適宜スライドやレジュメを作成すること。		
評価方法	講義内での報告、議論への参加、および最終レポートによって総合的に評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学・計量経済学の知識を前提として講義を行う。講義内では英文資料を参照する場合がある。 質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	受講者の関心のあるテーマおよび習熟度を考慮して初回講義で決定する。		

授業コード	ED20920010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	福祉経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Welfare Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1738		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	福祉や公共政策に関する応用ミクロ研究、特にマイクロデータを用いた実証分析を行うために必要な基礎的な能力を習得する。最新の研究論文を参考にして具体的な経済分析の手法に関する理解を深める。		
授業の到達目標	当該分野における近年の研究の動向および代表的な手法を理解する。それらを踏まえて、自らデータを収集・分析し、実証的な研究論文を完成させる。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業（リアルタイム・発展）に変更される場合がある。 前半は受講生の研究テーマに関連の深い最新の研究を取り上げ、その方法論、データ、発展性などについて議論する。 後半は受講生自身の研究について報告および議論を行い、研究を進展させる。 第１回_ガイダンス 第２回_研究テーマの選定 第３回_先行研究の報告と議論1 第４回_先行研究の報告と議論2 第５回_先行研究の報告と議論3 第６回_先行研究の報告と議論4 第７回_先行研究の報告と議論5 第８回_先行研究の報告と議論6 第９回_受講者による研究報告と議論1 第10回_受講者による研究報告と議論2 第11回_受講者による研究報告と議論3 第12回_受講者による研究報告と議論4 第13回_受講者による研究報告と議論5 第14回_受講者による研究報告と議論6		
事前・事後学習の内容	参加者は事前に指定された資料を読み、不明点を明確にしておくこと。 報告担当者は準備に十分な時間をとり、適宜スライドやレジュメを作成すること。		
評価方法	講義内での報告、議論への参加、および最終レポートによって総合的に評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学・計量経済学の知識を前提として講義を行う。 講義内では英文資料を参照する場合がある。 質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	必要に応じて講義内で紹介する。		

授業コード	ED20930010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業政策論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Industrial Policy		
科目ナンバー	EDAPJ1739		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学（特に産業組織論）の観点から分析するための手法を学ぶ。特に、実証研究（実証産業組織論）に際するトピックについて扱う。		
授業の到達目標	・政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学的な手法で分析できるようになる。 ・産業組織論の実証研究を行うための基礎を養成する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 スライドを用いて講義形式で行う。講義内で簡単な問題演習を実施する場合がある。 第１回　イントロダクション 第２回　需要推定と離散選択モデル 第３回　離散選択モデルの応用と推定上の論点（1） 第４回　離散選択モデルの応用と推定上の論点（2） 第５回　生産関数の推定と関連する論点（1） 第６回　生産関数の推定と関連する論点（2） 第７回　構造推定とデータ分析 第８回　動学的モデルとその推定（1） 第９回　動学的モデルとその推定（2） 第10回　企業合併の経済学（1） 第11回　企業合併の経済学（2） 第12回　実証産業組織論におけるその他の論点（1） 第13回　実証産業組織論におけるその他の論点（2） 第14回　実証産業組織論におけるその他の論点（3）		
事前・事後学習の内容	講義資料に基づいて予習・復習を行うこと。		
評価方法	宿題と授業態度によって評価する。		
受講生へのコメント	少なくとも学部上級レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識を有すること。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：授業の中で適宜指示する。		

授業コード	ED20940010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業政策論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Industrial Policy		
科目ナンバー	EDAPJ1740		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	実証産業組織論の代表的な論文を輪読する。		
授業の到達目標	・政策や規制が社会に与える影響について、ミクロ経済学的な手法で分析できるようになる。 ・実証産業組織論の基礎的な手法について理解する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 実証産業組織論に関する代表的な論文を受講者に割り当てて輪読する。論文担当者は事前に発表用のスライドを作成し、講義内で発表を行う。なお、対象論文の候補は開講時に教員から提示し、受講者は自らの関心に応じて選択できるようにする。 第１回　ガイダンス 第２回　論文の紹介と割当 第３回　論文発表（1） 第４回　論文発表（2） 第５回　論文発表（3） 第６回　小括、補足（1） 第７回　論文発表（4） 第８回　論文発表（5） 第９回　論文発表（6） 第10回　小括、補足（2） 第11回　論文発表（7） 第12回　論文発表（8） 第13回　論文発表（9） 第14回　講義のまとめ		
事前・事後学習の内容	十分余裕を持って担当論文を読み、発表資料を作成すること。		
評価方法	発表内容、授業態度、議論への参加状況を踏まえて総合的に評価する。		
受講生へのコメント	少なくとも学部上級レベルのミクロ経済学と計量経済学の知識を有すること。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：授業の中で適宜指示する。		

授業コード	ED20631010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1709		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済を政治制度・経済制度・文化・社会といった多角的な視点から検討する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題やジェンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。		
授業の到達目標	東南アジア経済に関する理解を深め、研究課題の再発見を到達目標とする。		
授業内容・授業計画	授業の前半は講義を行い、後半は講義の中で取り上げたトピックに関する議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	外国語文献を読み込む時間を十分にとってください。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	ED20641010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	東南アジア経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1710		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済に関する論文の報告・討論を行い、博士論文の作成に求められる基本的な知識と研究手法を学ぶ。		
授業の到達目標	文献研究を通してテーマの設定、データ収集、研究手法等を理解することを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回、論文の輪読と議論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_経済発展と産業政策、イデオロギー 第３回_東南アジア経済と教育・社会保障 第４回_移行経済国 第５回_農村経済 第６回_都市化とインフォーマルセクター 第７回_東南アジアの文化とビジネス 第８回_東南アジアの企業集団 第９回_アセアン経済共同体 第10回_インフラ開発 第11回_金融システム 第12回_中所得国化と経済格差 第13回_ジェンダー 第14回_環境問題		
事前・事後学習の内容	講義時に紹介する論文を読んでおくこと。		
評価方法	学期末に提出する論文形式のレポートで評価する。		
受講生へのコメント	議論への積極的な参加を求めます。		
教材	教科書は指定しない。参考文献は講義時に随時、紹介する。		

授業コード	ED20011010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済理論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EDTHJ1701		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される世代重複モデルの、政策問題への応用ができるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを検討する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。講義終了後に残った疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していることが、受講の前提である。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	ED20021010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済理論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Studies of Modern Economic Theory		
科目ナンバー	EDTHJ1702		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	世代重複モデルの研究		
授業の到達目標	マクロ経済諸問題を分析する場合にしばしば利用される世代重複モデルを、政策問題への応用も含め、自分で操作できるようになること。		
授業内容・授業計画	マクロ経済の動学モデルとして、世代重複モデルは便利な道具になっている。新古典派生産関数と完全雇用を仮定した教科書的な場合から、固定係数モデルの下での非標準的な場合まで、順次検討し、前提の置き方で経済の見方、および政策効果の解釈がどのように変わるかを、受講生みずから計算しながら実感する。 第１回_授業の進め方の説明 第２回_教科書的世代重複モデル 第３回_教科書的世代重複モデルの含意 第４回_教科書的世代重複モデルへの最低消費導入 第５回_教科書的世代重複モデルと年金制度 第６回_固定係数の下での世代重複モデル 第７回_固定係数の下での世代重複モデルの含意 第８回_固定係数の下での世代重複モデルと年金制度 第９回_中間まとめ 第10回_技術進歩について 第11回_教科書的世代重複モデルと技術進歩 第12回_固定係数の下での世代重複モデルと技術進歩 第13回_技術進歩の一般的効果 第14回_質問と回答		
事前・事後学習の内容	毎回の指定範囲を、数式の自分での導出も含めて事前に終えておく。毎回の授業終了後に残った疑問点を整理しておく。		
評価方法	毎回の参加態度（報告・発言含む）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	基礎科目であるマクロ分析I、IIの内容を理解していること、および毎回扱うモデルの計算を 自分でこなす姿勢が、受講の前提である。		
教材	授業の初回に提示する。		

授業コード	ED20111010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	数量経済分析論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EDTHJ1725		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済発展論において、いくつかの視点から理論分析を行う。		
授業の到達目標	経済発展に関するいくつかのテーマを学びながら、理論分析が行えるようになる。		
授業内容・授業計画	この講義は対面で行う。 各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_経済発展論：イントロダクション 第３回_貧困の罠：説明 第４回_貧困の罠：投資、教育、出生 第５回_理論分析に関する数学の復習 第６回_経済発展の可能性：説明 第７回_経済発展の可能性：生産技術 第８回_経済発展の可能性：教育、その他 第９回_複数均衡：生産技術 第10回_複数均衡：所得格差と絡めて 第11回_Unified growth theory：説明 第12回_Unified growth theory：サーベイ 第13回_経済発展論：補足 第14回_統計分析：説明		
事前・事後学習の内容	この講義でメインで使う講義資料は最初の講義のときに配布します。よって、各講義において、事前に内容を確認し、講義に受けてください。そして、授業のあと、復習してください。		
評価方法	講義の出席（1/4），講義内発表(1/4)，レポート（1/2)により評価する。レポートの内容は、講義内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介する。		

授業コード	ED20121010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	数量経済分析論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Quantitative Analyses of Economics		
科目ナンバー	EDTHJ1726		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	いくつかの理論分析と統計分析を学習しながら、経済理論や統計手法を用いた分析を自ら行う。		
授業の到達目標	経済理論と統計分析を習得し、それらを使って論文が書けることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この演習は対面で行います。 各受講生の研究テーマに応じて、個別指導を含め、具体的な研究の進め方を学ぶ。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究を行う。 第１回_イントロダクション（ガイダンス） 第２回_テーマ選定 第３回_既存の論文報告(グループ1)と議論：理論的考察 第４回_論文報告（グループ１）と議論：実証的検討 第５回_報告から必要となった理論分析の学習 第６回_報告から必要となった統計分析の学習 第７回_セミナー（他大学の研究者発表を聴講） 第８回_論文報告（グループ２）と議論：理論的考察 第９回_論文報告（グループ２）と議論：実証的検討 第１０回_論文報告（グループ２）と議論：拡張の検討 第１１回_報告から必要となった理論分析の復習 第１２回_報告から必要となった統計分析の復習 第１３回_セミナー（研究者発表２、質疑応答を課す） 第１４回_これまでの発表の中から選定し再発表		
事前・事後学習の内容	予習として、研究論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、自ら補足すること。		
評価方法	演習の出席（1/4)，演習内発表(1/4)，とレポート（1/2)により評価する。レポートの内容は、演習内で説明します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は適宜紹介する。		

授業コード	ED20451010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1707		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	ED20461010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	マクロ経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Macroeconomic Analysis		
科目ナンバー	EDTHJ1708		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	制度と経済発展、文化や家族の関連などについて最新の文献を購読する。		
授業の到達目標	制度と経済発展の分野について近年の研究の動向を理解した上で新しい研究の方向性を検討する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 下記の文化や家族と経済発展・マクロ経済学の関係に関するサーベイ論文（Handbook）を輪読した後、参加者の興味に応じて重要な文献を個別に検討する。 第１回 ガイダンス 第２回 文化と経済発展① 実証 第３回 文化と経済発展② 理論 第４回 文化と経済発展③ 総括 第５回 文化と制度① 私的所有権 第６回 文化と制度② 労使関係 第７回 文化と制度③ 再分配 第８回 文化と制度④ 総括 第９回 家族の絆と信頼① 移住 第10回 家族の絆と信頼② 出産 第11回 家族の絆と信頼③ 総括 第12回 家族とマクロ経済学① 人口動態 第13回 家族とマクロ経済学② 家計内所得移転 第14回 家族とマクロ経済学③ 総括		
事前・事後学習の内容	参加者は各自事前に定められた論文を読んで講義にのぞむこと。		
評価方法	平常点によって評価します。		
受講生へのコメント	大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提とします。		
教材	Y. Algan and P. Cahuc "Trust, Growth, andWell-Being: New Evidence and Policy Implications" in Handbook of Economic Growth Vol.2, 2014. M. Doepke and M. Tertilt "Families in Macroeconomics" in Handbook of Macroeconomics Vol.2B, 2016.		

授業コード	ED20031010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EDTHJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	「現代資本主義」はどのような特徴をもっているか？　それはこれまでの資本主義とどのように異なっているのか。　例えば、現代資本主義はしばしば「新自由主義」「認知資本主義」「レント資本主義」「プラットフォーム資本主義」といった名称で呼ばれるが、それらはいったいどういった新しい特性をもっているのか？　この授業ではマルクス主義のアプローチを基礎として、現代資本主義の特性とその矛盾（経済格差、恐慌、環境破壊など）について考察していく。その際には、マルクスの恐慌論や利潤率の傾向的低下法則、転形問題などが現代資本主義の問題点を分析するうえで、どれほどの妥当性を持つのかについても検討していきたい。		
授業の到達目標	自らの研究に関連した内容を見出し、それを批判的に検討することで、論文執筆のためのアイデアを練る。 読んだ研究文献を元にして、レジュメ作成・研究報告を行い、全体でのディスカッションを行う。		
授業内容・授業計画	昨年度はフェデリーチ『キャリヴァンと魔女』を詳細に検討した。今年度は、「人新世」をテーマに輪読を行う（受講者の関心次第で変更の可能性有）。　関連テーマについての研究報告も歓迎する。 以下、人名は例とし、参加者の関心などに合わせ、柔軟に変更する。 第１回_イントロダクション 第２回_人新世とは何か 第３回_コロナ危機① Andreas Malm 第４回_コロナ危機② ロベール・ボワイエ 第５回_コロナ危機③ スラヴォイ・ジジェク 第６回_気候変動 ① ジェレミー・リフキン 第７回_気候変動 ② ナオミ・クライン 第８回_資本新世① Jason W. Moore 第９回_資本新世② John Bellamy Foster 第10回_脱成長① Giorgos Kallis 第11回_脱成長② Serge Latouche 第12回_脱成長③ Kate Soper 第13回_エコ社会主義」 第14回_コミュニズム		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、ディスカッションの準備をしておく。 関連文献なども紹介するので、興味や必要に応じて読む機会があれば望ましい。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	その度ごとに指定し、配布する。 英語論文が中心となるので注意されたい。		
教材	参加者の関心や研究状況に十分配慮し、論文執筆や学会発表の内容を検討する場所としても自由に使っていただければと思います。		

授業コード	ED20041010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	現代資本主義論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on The Study of The Theories of Modern Capitalism		
科目ナンバー	EDTHJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	現代資本主義と世界恐慌の関係について、関連した英語文献についての検討を引き続き行い、また授業で扱っている内容に近いテーマで研究報告を行う。		
授業の到達目標	英語論文を読んで、内容を批判的に検討し、それについてのレジュメ作成、研究報告を行う。		
授業内容・授業計画	引き続き、以下の文献を精読し、ディスカッションを通じて現代資本主義についての考察を深める。 異なったアプローチを比較し、お互いの議論のどういった点に理論的な貢献や限界があるのかを批判的に検討していく。 第１回_イントロダクション 第２回_人新世とは何か 第３回_コロナ危機① Andreas Malm 第４回_コロナ危機② ロベール・ボワイエ 第５回_コロナ危機③ スラヴォイ・ジジェク 第６回_気候変動 ① ジェレミー・リフキン 第７回_気候変動 ② ナオミ・クライン 第８回_資本新世① Jason W. Moore 第９回_資本新世② John Bellamy Foster 第10回_脱成長① Giorgos Kallis 第11回_脱成長② Serge Latouche 第12回_脱成長③ Kate Soper 第13回_エコ社会主義」 第14回_コミュニズム		
事前・事後学習の内容	指定されたテキストを読み、レジュメを作成し、ディスカッションの準備をしておく。 事後には、授業のノートを見て、内容を復習する。		
評価方法	報告、ディスカッションへの参加、研究への取り組み姿勢などを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	オープンな雰囲気のなかで、自由な議論ができるよう気を付けたいと思っています。		
教材	その度ごとに英語文献を指定する。		

授業コード	ED20131010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	統計理論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Statistics		
科目ナンバー	EDTHJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。 なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になることがある。		
授業の到達目標	計量経済学の理論的理解		
授業内容・授業計画	欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。 第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model 第２回_Chapter 3 Least Squares 第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator 第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators 第５回_Inference and Prediction 第６回_Functional Form and Structural Change 第７回_Specification Analysis and Model Selection 第８回_Nonlinear Regression Models 第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model 第10回_Heteroscedasticity 第11回_Serial Correlation 第12回_Models for Panel Data 第13回_Systems of Regression Equations 第14回_Simultaneous-Equations Models		
事前・事後学習の内容	修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。 予復習必須		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	頑張りましょう！		
教材	Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)		

授業コード	ED20141010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	統計理論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Statistics		
科目ナンバー	EDTHJ1728		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	統計学の経済分析への応用である計量経済学の理論を学ぶ。こちらの特殊研究では、理論に重点をおく。これは、問題演習を行う。 なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になることがある。		
授業の到達目標	計量経済学の理論的理解		
授業内容・授業計画	欧米での大学院コアコースの標準的教科書であるGreene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)の前半を輪読する。こちらは問題演習を行う。 第１回_Chapter 2 The Classical Multiple Linear Regression Model 第２回_Chapter 3 Least Squares 第３回_Finite-Sample Properties of the Least Squares Estimator 第４回_Large-Sample Properties of the Least Squares and Instrumental Variables Estimators 第５回_Inference and Prediction 第６回_Functional Form and Structural Change 第７回_Specification Analysis and Model Selection 第８回_Nonlinear Regression Models 第９回_Nonspherical Disturbances-The Generalized Regression Model 第10回_Heteroscedasticity 第11回_Serial Correlation 第12回_Models for Panel Data 第13回_Systems of Regression Equations 第14回_Simultaneous-Equations Models		
事前・事後学習の内容	修士レベルの計量経済学講義を受けていることが前提。 予復習必須		
評価方法	平常点		
受講生へのコメント	問題演習こそ理解への王道です。		
教材	Greene, William, H. (2011) Econometric Analysis (7th Edition)		

授業コード	ED21211010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	西洋経済史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EDHIJ1713		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	近年の西洋経済史の研究動向の概説をテキストに基づいて行う。最近の経済史の概説では、英米の研究紹介が中心になることが多いが、大陸ヨーロッパの研究動向にも触れてみたい。		
授業の到達目標	教員の講義を通じて、近年の西洋経済史の研究動向を理解できるようにすることである。		
授業内容・授業計画	この授業では、近年西洋経済史で影響力を持ちつつある、ポメランツ『大分岐ー中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』を基に講義を行う。この著書は、西洋経済史における新しい視角を提示している。この著作の内容を解説する形で、授業を進めて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_ヨーロッパ経済発展のさまざまな比較、説明、叙述 第３回_ヨーロッパはアジアよりも早く発展したか 第４回_ヨーロッパとアジアにおける市場経済 第５回_奢侈的消費と資本主義の勃興 第６回_見える手 第７回_共通の制約 第８回_土地の制約を外す 第９回_一人当たり陸上輸送能力の推計 第10回_18世紀末の中国北部とヨーロッパにおける施肥推計 第11回_フランス、嶺南、そして一部の中国北部の森林と燃料供給の推計 第12回_イギリスへの商品輸入がもたらした「幻の耕地の推計」 第13回_中国長江下流農村における織物労働者の稼得能力推計 第14回_1750年とそれ以降における、長江下流域および中国全体としての綿花生産と生糸生産の推計		
事前・事後学習の内容	授業の前に、テキストで指定する章を予め読んできてください。		
評価方法	授業への出席と質疑応答等の積極性、レポート等を加味して評価を行う。		
受講生へのコメント	経済史に関心を持つ院生の方々を歓迎します。この授業は対面授業で行います		
教材	K.ポメランツ『大分岐ー中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年；塩谷昌史『ロシア綿業発展の契機』知泉書館、2014年。		

授業コード	ED21221010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	西洋経済史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Economic History of Europe		
科目ナンバー	EDHIJ1714		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	近年、西洋経済史研究で重要な概念や方法を提示した文献を授業の中で輪読し、教員がその内容を解説すると同時に、演習の参加者にその概念や方法を個々人の研究の中でどのように応用していけるのかについて、議論することを中心にする。		
授業の到達目標	近年の西洋経済史研究の中で重要と思われる概念と方法を理解し、その応用を考えられるようになることを到達目標としたい。		
授業内容・授業計画	教員の方で重要と思われる、西洋経済史研究の文献リストを予め準備するが、演習の参加者の興味・関心によっては、文献リストの変更も考えている。西洋経済史の主要な概念の理解を目的としているが、他方で院生の研究に資するような文献も取り上げたいと考えている。オリエンテーションで、教員の方向性と院生の方々との関心の調整を行いたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_大塚久雄『近代欧州経済史序説』 第３回_ウォーラーステイン『近代世界システム』 第４回_オブライエン『帝国主義と工業化』 第５回_カーティン『異文化間交易の世界史』 第６回_Caracausi; Jeggle (ed) Commercial Networks and European Cities 第７回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介① 第８回_ノース『制度・制度変化・経済成果』 第９回_Van Zanden, The Long Road to the Industrial Revolution 第10回_Riello, Cottton: The Fabric that made the Modern World 第11回_Mokyr, A Culture of Growth: The Origins of the Modern Economy 第12回_フランク『リオリエント』 第13回_ポメランツ『大分岐』 第14回_各自の研究テーマに関連する研究の紹介②		
事前・事後学習の内容	授業の前の週に輪読するテキストを指定するので、事前にテキストを読んできてください。		
評価方法	授業中の質疑応答や、各院生の研究の中間報告の内容等を総合して評価したい。		
受講生へのコメント	教員への要望は、できる限り取り入れて行きたいと考えているので、遠慮なく相談してください。この授業は、対面授業で行います。		
教材	テキストや参考書は、その都度、授業の中で指示します。		

授業コード	ED20211010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	社会政策論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Social Policy		
科目ナンバー	EDHIJ1705		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会・人口問題の専門知識を習得し、あるテーマについての自分なりの考えをもつ。		
授業の到達目標	社会・人口問題の今日的動向、今後の展望について理解を深める。		
授業内容・授業計画	社会・人口問題の専門知識を提供する。 第１回_　ガイダンス 第２回_　少子化と社会政策 第３回_　高齢化と社会政策 第４回_　人口減少と社会政策 第５回_　人口移動と社会政策 第６回_　人口問題と子ども 第７回_　人口問題と女性 第８回_　歴史のなかの人口問題 第９回_　人口論の射程 第10回_　人口論の形成と展開 第11回_　戦後日本の家族計画 第12回_　戦後日本の社会開発 第13回_　戦後日本の家族政策 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	講義内で指示した課題に取り組むとともに、予習復習を心がける。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	講義内で指定する。		

授業コード	ED20221010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	社会政策論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Social Policy		
科目ナンバー	EDHIJ1706		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	人口・社会政策に関する文献資料を検討し、受講者の研究報告について討論する。		
授業の到達目標	人口・社会政策の文献資料を読み解き、人口・社会政策に関する研究報告をする。		
授業内容・授業計画	文献資料の輪読と受講者の研究報告を予定している。 第１回_　ガイダンス 第２回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の到来 第３回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の出生動向 第４回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の死亡動向 第５回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期の人口移動 第６回_　文献資料の要約報告と討論　ポスト人口転換期のゆくえ 第７回_　文献資料の要約報告と討論　総括 第８回_　受講者による研究発表とコメント　受講者１ 第９回_　受講者による研究発表とコメント　受講者２ 第10回_　受講者による研究発表とコメント　受講者３ 第11回_　受講者による研究発表とコメント　受講者４ 第12回_　受講者による研究発表とコメント　受講者５ 第13回_　受講者による研究発表とコメント　受講者６ 第14回_　まとめ		
事前・事後学習の内容	文献資料の予習（検討）と講義内で出される課題に取り組んでいただく。		
評価方法	平常点、課題への取り組みなどから、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的に議論に参加してください。		
教材	初回の講義で指定する。		

授業コード	ED20831010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	産業経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Industrial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1729		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	規制の経済理論および先進諸国における規制政策について報告・討論を行い、関連する様々な研究活動についても助言・指導を行う。		
授業の到達目標	産業の規制政策に関する理論および先進諸国における規制政策について説明できるようになることが到達目標である。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が担当する論文を精読したうえ、日本語でレジュメを作成・報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方（文献・担当者の決定） 第２回_Introduction to Economic Regulation 第３回_Theory of Natural Monopoly 第４回_Natural Monopoly Regulation and Electric Power 第５回_Franchise Bidding and Cable Television 第６回_Public Enterprise 第７回_Dynamic Issues in Natural Monopoly Regulation: Telecommunications 第８回_The Regulation of Potentially Competitive Markets: Theory and Estimation Methods 第９回_Economic Regulation of Transportation: Surface Freight and Airlines 第10回_Economic Regulation of Energy: Crude Oil and Natural Gas 第11回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: The Energy and Water Supply Industries 第12回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Transport Industries 第13回_Regulatory Reforms of Public Utilities in Japan: Communications Industries 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	自らの知識を深めるよう、様々な先行研究にふれてください。		
教材	Mizutani, F. (2012) Regulatory reform of public utilities : The Japanese experience, Cheltenham, UK: Edward Elgar. Viscusi, W. K., Harrington, Jr., J. E. and Vernon, J. M. (2005) Economics of Regulation and Antitrust, 4th ed., Cambridge, MA: MIT Press.		

授業コード	ED20841010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	産業経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Industrial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1730		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	課題論文作成に向け、分析対象および分析手法について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では産業の規制政策について、個人指導と共に討論により問題の分析や解決を図る能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）専攻する分野を概説することができること。 （２）専攻する分野で必要な分析手法を理解できること。 （３）専攻する分野で必要な分析手法を自ら駆使して利用できること。また、その習熟度を後期博士課程に相応しいレベルまで引き上げること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が課題論文の進捗状況を報告し、それをもとに指導・ディスカッションを行う。 第１回_講義の進め方 第２回_レポートのまとめ方 第３回_テーマ選択 第４回_先行研究 第５回_現状把握（１）−制度− 第６回_現状把握（２）−データ収集− 第７回_中間レポートの報告 第８回_分析手法 第９回_データ分析（１）−データ整理− 第10回_データ分析（２）−プログラミングとパイロットテスト− 第11回_データ分析（３）−モデル推定− 第12回_分析結果の考察 第13回_課題論文の報告 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	予習として、当該分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補うこと。 　復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、関連分野の研究書や、学術掲載論文を読み、理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】で記載した能力を身つけることができたか否か、講義時報告、レポート等を総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にし、研究の方向についてわかりやすく表現できるように心がけること。		
教材	特になし。		

授業コード	ED20890010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	空間経済学研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Spatial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1735		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・空間経済学の主要なモデルを理解できるようになること． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． ・スライドを用いた講義を行う． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competition 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Models 第11回_Quasi-Linear Models 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Heterogeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておくこと．		
評価方法	課題や討論における質および取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・大学院レベルのミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	ED20900010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	空間経済学研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Spatial Economics		
科目ナンバー	EDAPJ1736		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	空間経済学は企業や家計（労働者）といった経済主体の立地を分析対象とする学問である．現実の経済においても，学問の世界においても，立地を分析することの重要性はますます高まってきている．本授業においては，都市（地域）内，都市（地域）間，国際間といった様々な空間スケールで生じる立地メカニズムを，数理的なモデルを通して学習していく．		
授業の到達目標	・講義で学んだモデルを受講者自身で解けるようになること． ・関連する英語論文を読み，その内容を理解した上で，問題点や拡張などについて議論できるようになること．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． ・講義で学んだモデルを受講者自身で解く． ・関連する英語論文を読み，その内容や問題点，拡張などについて議論する． 第１回_Introduction 第２回_Residential Land Use Model 1 第３回_Residential Land Use Model 2 第４回_Spatial Competition 第５回_Monopolistic Competition and New Trade Theory 第６回_New Trade Theory 1: Home Market Effect 第７回_New Trade Theory 2: Welfare Analysis 第８回_Trade Policies and Footloose Capital Model 第９回_New Economic Geography 第10回_Core-Periphery Models 第11回_Quasi-Linear Models 第12回_Inter-Firm Linkages and Agglomeration 第13回_Firm Heterogeneity 第14回_Summary		
事前・事後学習の内容	・事前の学習：事前に課題がある場合は必ずやってくること． ・事後の学習：演習課題についてよく復習しておくこと．		
評価方法	課題やプレゼンテーション，討論の質・取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	・大学院レベルのミクロ経済学および経済数学の知識が求められる． ・英語論文を読む力が求められる．		
教材	・テキスト：特に指定しない． ・参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	ED20611010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	東アジア経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EDGRJ1707		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	開発経済学の基本理論を用いて、植民地近代化、国民経済の形成過程、開発独裁、経済民主化、民族資本の形成、周辺国国家との経済協力などのトピックスを中心に、東アジアの構造変化について報告する。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済の分析理論に関する知識を修得し、東アジア経済が抱える諸問題について考え、分析する能力を身につけることを達成目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、以下のようなトピックスに関する最新の論文を材料に講義を行い、院生とテーマにそって議論を行う。 第1回_イントロダクション:講義の進め方 第2回_植民地近代化論:植民地支配の光と影 第3回_従属論：低開発の発展 第4回_世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回_後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回_新国際分業論：先進国と中進国 第7回_企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回_計画経済と社会主義市場経済:鄧小平の挑戦 第9回_開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回_経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回_経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティール 第12回_経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回_経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	ED20621010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	東アジア経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on A Study on East Asian Economies		
科目ナンバー	EDGRJ1708		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	東アジア経済に関する諸問題について報告・討論を行う。		
授業の到達目標	本講義では、東アジア経済について、個人指導と討論により課題分析や論文作成を行う能力を養うことを目指す。具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。 （１）東アジア経済について概説する能力があること。 （２）東アジア経済を分析できる理論・手法をマスターしていること。 （３）東アジア経済に関して経済理論を駆使して分析する能力を有していること。		
授業内容・授業計画	各受講生の研究テーマに応じて個別指導を行い、具体的な研究の進め方を教授する。 　受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら研究をサポートする。 第1回から第5回、東アジア経済に関する理論研究。 第6回から第10回、東アジア経済に関する文献(現状分析)研究。 第11回から第14回、院生による研究発表と討論。 第1回　講義の進め方：講義の進め方 第2回　植民地近代化論：植民地支配の光と影 第3回　従属論：低開発の発展 第4回　世界システム論と不等価交換：中枢と周辺 第5回　後発性利益と後発性不利益：キャッチアップ工業化の功罪 第6回　新国際分業：先進国と中進国 第7回　企業内国際分業：多国籍企業の製造拠点と販売拠点 第8回　計画経済と社会主義市場経済：鄧小平の挑戦 第9回　開発独裁：権威主義体制下の社会変動 第10回　経済援助と経済制裁：北朝鮮とどう向き合うか 第11回　経済のグローバル化と通貨危機：金大中とマハティールの構造改革 第12回　経済協力と自由貿易協定：FTAとTPP 第13回　経済ナショナリズムと保護主義：トランプと習近平 第14回　まとめ：世界経済はどこに向かうのか		
事前・事後学習の内容	講義時に習得した研究手法に基づいて、各自研究を進めること。		
評価方法	講義の到達目標が達成されたかどうかを判定するために、レポート、テストを行い、総合的に判断する。		
受講生へのコメント	研究課題を明確にしておくこと。		
教材	朴一『東アジアのポリティカルエコノミー』晃光書房、2019年		

授業コード	ED20870010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	世界経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on World Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1727		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 -この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 -農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 -その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション -工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ -手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 -間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 -WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 -国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 -線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 -基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション -勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 -それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 -2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 -ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	ED20880010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	世界経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on World Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1728		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉える。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスをみずからの研究に活かすことができる。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を中心に経済史を概観して、資本制に関する理解を深める。ついで世界経済の段階規定を行い、さらに現代世界経済の把握へと進む。 　受講生の状況や要望に応じ、担当者による全面的な講義形式とするか、ゼミ形式で受講生に輪読で報告してもらったうえで議論するか、授業の運営形態については柔軟に考えたい。 第１回_経済学と経済政策 -この学問の成り立ち 第２回_資本制の起源 -農民層分解と三大階級、さらに現代の経営 第３回_産業革命と社会の変容 -その何次めかにある今日 第４回_最初のグローバリゼーション -工業製品輸出の世界化 第５回_中進国のキャッチアップ -手段としての関税と国民市場 第６回_19世紀後半の時代状況と明治維新 -間に合った産業化 第７回_貿易思想と産業育成政策 -WTO創設に伴うこのアプローチの射程 第８回_戦後日本の分断 -国際競争に曝されているセクターとそれ以外 第９回_ソ連型社会主義の挑戦と後退 -線型発展史観の動揺 第10回_世界システム論の貢献 -基軸経済論との対比 第11回_冷戦の終結とグローバリゼーション -勢力圏分割の終焉 第12回_雁行形態論とPLC仮説 -それらの前提の溶解 第13回_国際通貨システムの変容 -2つの本位制の解体 第14回_地域経済統合と自由貿易体制の行方 -ドイツ関税同盟からEU、その先へ		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深める。関連文献にもできるだけ眼を通すよう心がける。		
評価方法	平常点によって評価する。		
受講生へのコメント	問題意識をもって参加されたい。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	ED20771010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	国際経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on International Economics		
科目ナンバー	EDGRJ1721		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証する。		
授業の到達目標	経済発展を中心に、昨今の国際経済事情について理解を深め、解説するできることが最大の目標となる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 分担報告を求める。なお、図表などを用いた解説をおこなうこともあるが、高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業 第３回_農村信用 第４回_教育 第５回_労働移動 第６回_工業化 第７回_技術 第８回_開発金融 第９回_開発援助 第10回_持続可能な開発 第11回_課題報告　農業 第12回_課題報告　教育 第13回_課題報告　労働 第14回_課題報告　工業		
事前・事後学習の内容	テキストの予習と報告内容の復習を行い、最終課題レポート作成及び報告につなげていく。		
評価方法	報告内容とレポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	講義中に指示する。		

授業コード	ED20781010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	国際経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on International Economics		
科目ナンバー	EDGRJ1722		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	発展途上国経済に関する文献を読む。		
授業の到達目標	大学院レベルの国際経済および開発経済の知識を得て、ケーススタディを行う。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 文献をまとめ、いくつかのテーマについて討論を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_不平等 第３回_貧困 第４回_人口 第５回_高齢化 第６回_教育 第７回_健康 第８回_農業発展 第９回_ミクロ経済学的視点 第10回_国際貿易 第11回_貿易理論 第12回_国際収支 第13回_経済危機 第14回_開発援助		
事前・事後学習の内容	事前に毎回の内容を読み終えておくことと事後にサマリーの作成が求められる。		
評価方法	分担報告のレポート 関心のある分野についてのレポート		
受講生へのコメント	受講学生の興味によって取り扱うテーマを変更するかもしれない。		
教材	演習中に指示する。		

授業コード	ED20591010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	中国経済論研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Chinese Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1703		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国経済の発展を開発経済学のフレーム・ワークで分析します。		
授業の到達目標	中国経済の発展を開発経済学の諸理論によって分析し、計量経済学的に検証出来るようになることを目標とします。		
授業内容・授業計画	中国経済について開発経済学的に分析しながら、他の東アジア諸国との比較を試みるような授業を行います。 第１回_ガイダンス 第２回_初期条件と歴史的文化的特性 第３回_成長モデルと構造変化 第４回_ルイス・モデルと中国の転換点（1）ルイスの転換点 第５回_ルイス・モデルと中国の転換点（2）生産関数分析 第６回_外向型発展モデルと中国 第７回_雁行形態論 第８回_人口転換と人口ボーナス 第９回_分配と貧困 第10回_人的資本と教育 第11回_中国の環境問題 第12回_開発独裁モデル 第13回_中国の開発経験のディスカッション 1980-90年代について 第14回_中国の開発経験のディスカッション 2000年代以降について		
事前・事後学習の内容	教科書の予習を行い参加すること。		
評価方法	レポートで評価します。		
受講生へのコメント	授業開始時に指示します。		
教材	積極的に授業に参加すること。		

授業コード	ED20601010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	中国経済論研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Chinese Economy		
科目ナンバー	EDGRJ1704		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	中国経済について書かれた英語文献を輪読します。		
授業の到達目標	中国経済について書かれた英語文献の読解に慣れることによって博士論文の作成に役立てることが目標となります。		
授業内容・授業計画	中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読が授業の内容になります。 第１回_ガイダンス 第２回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（1）GDPの計測 第３回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（2）価格指数の計測 第４回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（3）海外直接投資 第５回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（4）農業 第６回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（5）工業 第７回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（6）郷鎮企業 第８回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（7）国有企業改革 第９回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（8）地球温暖化 第10回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（9）酸性雨 第11回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（10）農業環境問題 第12回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（11）国際貿易 第13回_中国経済について書かれた英語文献・論文の輪読（12）国際金融 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	指定された英語文献、学術論文を予習すること。		
評価方法	レポートで評価します。		
受講生へのコメント	積極的な参加を期待します。		
教材	授業中に指示します。		

授業コード	ED20950010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代日本社会史研究特論		
英語科目授業名	Advanced Lecture onSocial History of Modern Japan		
科目ナンバー	EDGRJ1729		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	Justin Aukema		
科目の主題	本授業では、明治期から現在までの近代日本社会史を紹介する。その中で、労働者や女性、少数派民族などといった一般の人々や社会弱者が日本の近代史における劇的な変化をどのように経験したかという点に重きを置く。また、それを理解するために、先行研究テキストと共に積極的に日記や証言集、オーラル・ヒストリーなどといった一次資料を取り扱い、その分析に従事する。日本にいる一般の人々がどのように近代国家の発展を追ってきたか？その歴史的変化や経済に伴う社会関係をどのように体験してきたか？授業の中で、それらの質問を追求していく。そして、その過程において現代日本における問題の歴史的起源を明瞭にすることを大きな目的とする。講義は全て英語で行われるが、日本語資料を取り扱う場合もある。また、博士課程後期の学生にテキスト解説を行い、ディスカッションを担当することがある。		
授業の到達目標	1）近代日本の発展と国家の形成に伴う風潮をミクロ及びマクロレベルで理解すること。 2）実践的に一次資料を収集し、分析することにより歴史的研究手法を身につけること。 3）テキスト解読や講義内容の聞き取りはもちろんのこと、英語で研究レポートや発表を完成することを通して高度な英語能力を取得すること。		
授業内容・授業計画	毎週の課題として、教員が指定するテキスト（一次資料・二次資料を含む）を読み、次の週の講義内容を理解するための必要知識を身につけていく。授業では、教員が英語で講義をする。また、場合によりテキスト講義内容を踏まえて、グループ・ディスカッションを通して学生に質問を答えてもらうことがある。コースの半分が経過したら中間テストがあり、学期末に学生による研究レポートと発表がある。 第１回_　近現代日本史への紹介：幕末から明治期へ 第２回_　明治・大正における労働・社会関係（I） 第３回_　明治・大正における労働・社会関係（II） 第４回_　戦争下の庶民生活と体験 第５回_　占領期と戦後体制 第６回_　中間テスト 第７回_　戦後：労働と闘争（I） 第８回_　戦後：労働と闘争（II） 第９回_　日本における新自由主義 第10回_　近現代における貧困と不平等（I） 第11回_　近現代における貧困と不平等（II） 第12回_　学生発表（I） 第13回_　学生発表（II） 第14回_　フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、教員が指定するテキストを読み、それと講義内容を踏まえて、質問に答えること。さらに、学生による資料収集と分析をすることがある。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 1）課題（テキスト解読と課題質問）＝40%；2）レポートと発表＝30%；3）授業内ディスカッション＝20%；4）中間テスト＝10%		
受講生へのコメント	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 1）課題（テキスト解読と課題質問）＝40%；2）レポートと発表＝30%；3）授業内ディスカッション＝20%；4）中間テスト＝10%		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	ED20960010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代日本社会史研究特論演習		
英語科目授業名	Advanced Seminar on Social History of Modern Japan		
科目ナンバー	EDGRJ1730		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	Justin Aukema		
科目の主題	本授業では、明治期から現在までの近代日本社会史について研究する。その中で、労働者や女性、少数派民族などといった一般の人々や社会弱者が日本の近代史における劇的な変化をどのように経験したかという点に重きを置く。また、それを理解するために、先行研究テキストと共に積極的に日記や証言集、オーラル・ヒストリーなどといった一次資料を取り扱い、その分析に従事する。日本にいる一般の人々がどのように近代国家の発展を追ってきたか？その歴史的変化や経済に伴う社会関係をどのように体験してきたか？授業の中で、それらの質問を追求していく。本授業は、講義で触れたことをより深く探るため、演習科目として学生が関連する一次資料を主体的に分析し、ディスカッションを行う。また、博士課程後期の学生が資料の解説を行い、ディスカッションを担当することがある。		
授業の到達目標	1）近代日本の発展と国家の形成に伴う風潮をミクロ及びマクロレベルで理解すること。 2）実践的に一次資料を収集し、分析することにより歴史的研究手法を身につけること。 3）テキスト解読や講義内容の聞き取りはもちろんのこと、英語で研究レポートや発表を完成することを通して高度な英語能力を取得すること。		
授業内容・授業計画	テキストや講義内容を踏まえて、学生が自主的に一次資料を分析し、また、それについてグループディスカッションを行う。その過程において、歴史的研究方法を身につけていく。 第１回_　近現代日本史への紹介：幕末から明治期へ 第２回_　明治・大正における労働・社会関係（I） 第３回_　明治・大正における労働・社会関係（II） 第４回_　戦争下の庶民生活と体験 第５回_　占領期と戦後体制 第６回_　中間テスト 第７回_　戦後：労働と闘争（I） 第８回_　戦後：労働と闘争（II） 第９回_　日本における新自由主義 第10回_　近現代における貧困と不平等（I） 第11回_　近現代における貧困と不平等（II） 第12回_　学生発表（I） 第13回_　学生発表（II） 第14回_　フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、教員が指定するテキストを読み、それと講義内容を踏まえて、質問に答えること。さらに、学生による資料収集と分析をすることがある。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 1）課題（テキスト解読と課題質問）＝40%；2）レポートと発表＝30%；3）授業内ディスカッション＝20%；4）中間テスト＝10%		
受講生へのコメント	日本史や歴史的研究方法について学びながら、高度な英語能力も身につけていこう。		
教材	日本史や歴史的研究方法について学びながら、高度な英語能力も身につけていこう。		

授業コード	ED10011010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	後期研究指導1		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course1		
科目ナンバー	EDRGJ1701		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文執筆に必要な知見を習得させる。		
授業の到達目標	博士論文の部分草稿を作成する。		
授業内容・授業計画	当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。 また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	各自の研究テーマに関して、先端研究の正確な理解の上に、各自の独自な視点を見出すこと。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	ED10021010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	後期研究指導2		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course2		
科目ナンバー	EDRGJ3801		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文執筆に必要な指導を行う。		
授業の到達目標	レフェリー誌への投稿論文を完成させる。その上で、２本目の投稿論文を作成する。		
授業内容・授業計画	「後期研究指導1」に引き続き、当該分野内外の先端研究を消化し、研究手法を習熟させる。 また、論文作成に必要な研究資料の収集についても助言する。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「後期研究指導1」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

授業コード	ED10031010	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	後期研究指導3		
英語科目授業名	Research Guidance for the Doctoral Course3		
科目ナンバー	EDRGJ5901		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	別紙2参照		
科目の主題	博士論文作成の指導を行う。		
授業の到達目標	論文草稿を基に、長所短所を指摘し、充実した博士論文を完成させる。		
授業内容・授業計画	年度当初に、論文題目、章別編成を作成し、中間段階で、論文草稿、要旨を作成する。 その後、論文の審査委員会、公聴会での意見を反映させ、博士論文を完成させる。 第１回_ガイダンス 第２回_報告及び討論 第３回_報告及び討論 第４回_報告及び討論 第５回_報告及び討論 第６回_報告及び討論 第７回_報告及び討論 第８回_報告及び討論 第９回_報告及び討論 第10回_報告及び討論 第11回_報告及び討論 第12回_報告及び討論 第13回_報告及び討論 第14回_報告及び討論 第15回_報告及び討論 第16回_報告及び討論 第17回_報告及び討論 第18回_報告及び討論 第19回_報告及び討論 第20回_報告及び討論 第21回_報告及び討論 第22回_報告及び討論 第23回_報告及び討論 第24回_報告及び討論 第25回_報告及び討論 第26回_報告及び討論 第27回_報告及び討論 第28回_研究経過の報告及び研究経過報告書提出		
事前・事後学習の内容	予習として、論文作成に必要な研究書や、学術掲載論文を読み、理解が不十分なところを補い報告の準備をすること。 復習として、各回の終了後、理解が不十分と指摘された点について、指摘された研究書や、学術掲載論文を読み理解を深めること。		
評価方法	【授業の到達目標】を達成できたか、平常点及び研究経過報告書等で総合的に判断する。		
受講生へのコメント	「後期研究指導2」を受けていることが前提である。		
教材	担当教員が個別に指示する。		

後期研究指導 1・2・3　担当教員一覧

理論経済分野

○北原　　稔：ミクロ経済学（応用ミクロ経済学）
○中嶋　哲也：近代経済理論（経済成長理論及び不況理論の研究）
○中島　義裕：複雑系経済学（理論・実証・計算機実験による市場の進化的理解）
○中村　英樹：数量経済分析論（国内不平等、機械化の影響）

経済史・経済思想分野

○中村　健吾：社会思想史（欧州統合と国民国家、シティズンシップと人権、社会的排除と社会的包摂）
○若森みどり：経済学説史（カール・ポランニー研究、社会的共通資本とコモンズの思想研究、経済思想史）

応用経済分野

○浦西　秀司：産業経済論（公益事業の規制政策に関する計量分析）
○小川　　亮：地方財政論（地方財政および都市・地域経済に関する実証研究）
○滋野由紀子：日本経済論（日本経済と家計行動の相互関連）
○髙塚　　創：空間経済学（空間経済の諸問題に関する研究）
○辻　　賢二：金融経済論（金融契約に関する理論モデル分析）
○松本　　淳：財政政策論（公的年金制度改革、年金課税、日本の社会保障制度と租税制度の関係について）

グローバル経済分野

○有賀　敏之：世界経済論（多国籍企業・グローバル企業、国際貿易体制に関する研究）
○金子　勝規：東南アジア経済論（タイ地域研究、ASEAN 経済論、社会開発および社会福祉に関する実証分析）
○久保　彰宏：国際経済論（国際マクロ経済分析）
○朴　　一：東アジア経済論（朝鮮半島地域研究、日韓・日朝関係論、国際労働移動及び移民労働者に関する実証研究）
○森脇　祥太：開発経済学・中国経済論（アジア諸国を対象とした経済発展の比較研究）

＊　注意事項

＊　杉本キャンパスマップ

＊　教員名簿

注 意 事 項

・定期試験受験上の注意

1　試験会場においては、黒板に提示してある着席表のとおり着席すること。

2　各自の机上に学生証を提示しておくこと。万一学生証を忘れたときは必ず学生サポートセンター経済学研究科教務担当に申し出て指示を受けること。

3　解答しないで退場する場合は、試験開始後 30 分を経過し、かつ、問題用紙および答案用紙を監督者に返還した後でなければ退場することができない。

4　遅刻した者は試験開始 20 分経過後は入場することができない。

5　不正行為を行なった者に対してはその期の成績はすべて無効とする。

・交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について

1　交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

① JR阪和線全線

② Osaka Metro御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

2　気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

3　遠隔授業（同時双方向型に限る）においてWebClassが停止した場合の休講について

WebClassが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とします（授業担当教員から履修者への個別の連絡がある場合は除く）。ただし、別表のとおりWebClassの復旧の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、遠隔授業（オンデマンド型）については休講の措置を行いません。

（別表）

運行再開・警報解除・WebClassの復旧の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午 前 7 時 以 前		全時限
午 前 10 時 以 前	1・2 時限	3・4・5 時限
午前10 時を過ぎても運行再開・警報解除されない場合	全時限	

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。

※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。

※別段の決定をするときは、OCU UNIPA に掲示をする。

・感染症等罹患時の措置について

本学では、学校保健安全法の定めにより、「学校において予防すべき感染症」に罹患、または罹患した疑いがある場合、大学内での感染拡大を予防するため、出席停止の措置をとることになっている。詳細については全学ポータルサイト（https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/）を確認し、所定の手続きを行う必要がある。

杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
- URAセンター
- 事務室
（人事課、財務課、管理課
社会連携課、研究支援課）

2 商学部棟

3 経済学部棟

4 法学部棟

5 文学部棟

6 経済研究所棟
- **都市経営研究科**
- 創造都市研究科
- 人権問題研究センター
- 証券研究センター

7 都市研究プラザ

8 田中記念館
- 事務室
（大学サポーター交流室）

9 保健管理センター

10 河海工学実験場

11 学術情報総合センター
- 大学史資料室
- 事務室
（情報推進課
学術情報総合センター運営課）

12 理学部棟
- 数学研究所

13 工学部棟

14 生活科学部棟

15 工作技術センター

16 **生活科学部棟別館**
- **心理臨床室**

17 2号館
- 都市健康・スポーツ研究センター
- 複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
- 英語教育開発センター
- 大学教育研究センター
- **学修支援推進室**
（OCU ラーニングセンター）
- Global Village
- 事務室
（共通教育支援室（学務企画課）
国際交流室）

19 4号館

20 基礎教育実験棟

21 第1学生ホール

22 第2学生ホール

23 第3学生ホール

24 スポーツハウス

25 ゲストハウス

26 インキュベータ

27 高原記念館
- 地域連携センター

28 学生サポートセンター
- 事務室
（内部監査室、大学戦略課
就職支援室、安全衛生管理室
学務企画課、学生支援課
入試室、広報室、大学計理課）

29 共通研究棟

30 人工光合成研究センター

31 理系共通実験棟

32 本部棟
- 事務室
（総務課）

33 **戦没学友の碑**

34 **五代友厚像**

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
	２階	企画別共同研究室Ａ～Ｄ、院生用教室
1　１号館	２階	１２Ａ、１２Ｂ、１２Ｅ、１２Ｆ １２０～１２８
	３階	１３Ａ～１３Ｇ １３０～１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１～５２４
	３階	５３Ｅ１・５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	11 階	７１１-Ａ～７１１－Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０～８１６ 自習室
	２階	８２０～８２２
	３階	８３Ａ～８３Ｌ ８３０～８３５
	４階	８４Ａ ８４０～８４９ 外国語特別演習室１～５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

経済学研究科専任教員

			研究室 TEL 06-6605-	
有賀敏之	教授	世界経済論研究	2492	alga@osaka-cu.ac.jp
浦西秀司	〃	産業経済論研究	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
小川亮	〃	地方財政論研究	2268	r-ogawa@osaka-cu.ac.jp
金子勝規	〃	東南アジア経済論研究	2265	kaneko@osaka-cu.ac.jp
北原稔	〃	ミクロ経済学研究	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
久保彰宏	〃	国際経済論研究	2291	kubo@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野由紀子	〃	日本経済論研究	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
髙塚創	〃	空間経済学研究	2285	takatsuka@econ.osaka-cu.ac.jp
辻賢二	〃	金融経済論研究	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋哲也	〃	近代経済理論研究	2281	nakajima@osaka-cu.ac.jp
中島義裕	〃	複雑系経済学研究	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村健吾	〃	社会思想史研究	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村英樹	〃	数量経済分析論研究	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴一	〃	東アジア経済論研究	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
松本淳	〃	財政政策論研究	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇祥太	〃	開発経済学研究	2269	fai74566@osaka-cu.ac.jp
若森みどり	〃	経済学説史研究	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
J.アウケマ	准教授	近代日本社会史研究	2266	aukemajk@osaka-cu.ac.jp
五十川大也	〃	産業政策論研究	2283	isogawa@osaka-cu.ac.jp
岡澤亮介	〃	マクロ経済学研究	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
黒田雄太	〃	福祉経済論研究	2287	ykuroda@osaka-cu.ac.jp
齋藤幸平	〃	現代資本主義論研究	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
塩谷昌史	〃	西洋経済史研究	2270	shiotani@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田淳	〃	流通経済論研究	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田菜穂	〃	社会政策論研究	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
中川満	〃	統計理論研究	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
内藤克幸	〃	マクロ経済動学研究	2288	naito@osaka-cu.ac.jp
彭浩	〃	日本経済史研究	2295	penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	行動情報論研究

非常勤講師

鹿野繁樹	計量分析	大阪府立大学経済学部
阪原淳	Issues in Economics B	京都精華大学